

することは疑ひない、併しこのことは概括的のことであるから深く論ずる
価値がない。

六七、大阪者

京都の者は大阪者を批評して曰く、大阪の人間は萬事に下司根性で、お
まけに食ひ倒れで他愛がおまへん、又大阪の者は京都の者を批評して曰く
京都の人間は古御所の雛人形として食ふものさへ食はずに澄し込んでけつ
かると云ひ、東京者は大阪者を批評して、温る間の贅六野郎奴と罵倒する
何れも一片の眞理はある、併し大阪者にすると、東京者を鼻掴みにする、

『エヘン鼻頭の強い空威張の東京者が幾何自慢してもあきまへん、精々五
十圓か六十圓一晩に費つて江戸ッ奴を振り廻しよるのは、ちと困るなア
よし一晩に百圓二百圓費ふ人があるかも知らん、併し後が續きまへんで、
そこへくると大阪人間はな、どんく云ふわけぢやおまへんが一晩に十圓
二十圓と費つて十年も二十年も同じ料理店へ通つた阿呆は随分おますさか
いな、江戸ッ奴なんかの及ぶどころぢやおまへん、又花柳界でなくとも、
東京の商人のやうに小賣ぢやおまへんさかへにな、ことか大きおます』何
萬圓でも豆腐か煎餅を買ひに遣るやうに小僧一人でどんく出しますさか

いな、江戸ッ奴とちと膽玉が違ひますと、大平らな氣烟を吐く、併し大阪の人は東京の人に比べたなら、勘定高くて、忍耐があつて、づう／＼しい點は確かにある、故に商人としては至極結構だか知らないが、五分間と云ふ短時間の應接で要領を得んとするのは、極めて困難なことである、況んや先方に對し要求を爲す場合の如きは一層困難である、まして懸引が強くて不得要領なのが常であるから、短時間で要領を得るは中々骨が折れることである、故にかゝる人に對しては先方の機先を制し公明正大に進むより外に途はない。

六八、京都者、

京都は明治維新以前まで八百年と云ふ永い間帝都であつたに何處となく、萬事につけてゆつたりとした處がある、さうして習慣に支配されてゐるのかどうかしらないが、京都の人間はのんびりして、言葉までも生温ツこく、優しい又昔時から京都の着倒れと云つて、食ふことよりは着ることおもに重きを置くおと云ふ状態である、そのくせ京都の者は大阪の者を批評して曰く、大阪人間見たいな下司根性な雑水腹ぢや他愛がおまへんがな、えらいお氣の毒だすが京都の人間と大阪人間とは比較になりまへんだすで、

大阪者が自慢したかつて、萬事が下司びたもんだすさかいにお座敷へも上げられまへん代物どすと大氣焔を吐く、それも其筈大阪と京都とは地勢上と云ひ、歴史上と云ひ、商工業と云ひ、至る處萬事が異つて居るので、人の性格は勿論、事々物々まで異なつて居るわけである、何れの批評が眞なりやは、讀者諸君の御判断に俟べきことである、併し何れの批評にしる幾分の理由はある、故に京都の人に接した場合は、氣短では充分の交際は出來ない、何となれば言葉まで生温こくて優しく、何處どなく暢氣な處があつて、落付て居て狼狽ない、充分熱慮の上でなければ何事によらずさは

らず、決斷しないのが常であるから、氣が短かくては先方を充分に満足せしめることが出來ないからである、故にかゝる人に應接を爲す場合には落附た態度を爲し、先方が満足し得るだけ餘裕がなければならぬ、さうして短時間の應接でこれだけの藝を爲すのだから、可成先方をして生温こい氣焔を吐かせないやうに力めなければ、五分間應接も失敗に終る場合がある。

六九、名古屋者

名古屋は大阪に次で商業繁昌の土地であるだけに頗る勘定高いもんで

ある、さうして名古屋はすかたんおきアせの美人の本家本元で東京の、きびしくした兄哥を手玉に取つて容易に翻弄する立派な腕のある處である、即ち勘定にかけたら東京者は跣足で側へも寄ッ付ない程の商業地、取ることならば算盤玉を二五の十一とハネ、出す方ならば二五の九と動く懸引の巧妙さは大阪に劣らぬ腕前、負けるると云つても、貴下はん、お代物が違ふがなも、そないなこつたおまつんがなも、野暮なこと云やはらんがよい、この代物は經濟向きで、お徳用だなも、買うときんせな、安すおますで、こないな代物なら、冗事になりまへんで、何處までも優しい言葉で除々に

進められるので氣の早い東京者は早速買ひ求めると云ふ状態、さうして總てが經濟向に出來上つてゐるので冗事なことはないが、巧妙な懸引に釣り込まれて、お客の方で冗事な物でも買ふと云ふ始末、かゝる人に接した場合に注意すべきことは、先方の巧妙な懸引に釣り込まれない様にする事が肝要である、又短時間の中で要領を得る應接をせんとすれば、冗事を省く要點々々を談話しても先方は理解し得る如に出來上つて居るから、可成先方をして多く口をきかせないやうにして、着々と目的とする所に突進せねばならない、然るときは短時間にも要領を得ることが出来るのである。

社交術

一 序言

我國は明治維新以來著しい發達を爲して今日では世界の一等國に列し自ら文明を以つて任じてゐる、故に精神上の進歩發達は云ふまでもなく物

質上の文明に至つては殆ど筆紙に盡くすことが出来ない程進歩して來た。就中商工業の發達は其最も甚だしいものである、然るに此の半面には生存競争が激烈になつて各人の生活の程度も昔と異なつて豊かでなくなり生活難を稱ふる者も随分尠くない、殊に社會の進歩に伴ひ退歩するものは徳義心である、茲に至つて各人は昔の様に宗教や道徳を説いて正義を重じ同情を爲す様なことは毛頭ない、皆自家保存の爲めに勤勞と工夫とを用ひ時には他人を欺罔したり時には腕力に訴へて他人を苦しめるなど總て不法な手段に出でゝある尠なくとも各人は自家保存の理法に因つて悪しきを避くる

爲めに其意を明かにせず掛引を爲すのが常である、さうして各人の爲すべきことは常に同一でない、或者は素質が善良であり、或者は不善であり、或者は非凡であり、或者は平凡である、故に之等の人に接する場合に於ても同一の方法に因つて其目的を達することは出来ない、必ずや各人に適應した方法に因つて應對しなければならぬ、殊に女子に對する場合は尙更研究を要する事項が多い即ち女子と小人は養ひ難しと云ふが全く女子に接する場合は中々外交が困難である、然るに外交の秘訣を知得して接した場合は却つて男子より馭し易い點がある。

要するに現在の趨勢は功利主義が社會の全般を支配する様になつてゐるにも拘らず共同生活を爲さなければ一日も生存することの出来ない時代であるから各人は廣く交際を爲して互に利益の交換を圖らなければならぬ。さうして廣く交換の途を開けば開く程夫れだけ利益を多く獲得することが出るので各人は常に巧みに交際を爲し利益交換の途を開発することに努力せなければならぬ。

故に交際術を知得して交際を利用し巧妙に利益を得るは成功の要素である言葉を換へて云へば立身出世の途を開くには交際術に長じ其交際に依つ

て利益を獲得するのである、然らば如何にして其交際術を知得するやと云ふに以下説明せんとする自動的要件と他動的要件とを理解し之を適當に應用すれば自ら交際の秘訣を知得し其の交際に依つて互に利益を交換することが出来るのである、然るに他動的要件である人心看破術は之を學ぶに最も困難であつて而かも學者間に於て深く之が研究を爲した者が尠ないのみならず、人の心の研究は晩近に於て發達したものである。

思ふに天文学地文学と云ふ學問は古代から研究されてゐたのに拘らず人と關係の密な心の研究が近代に於て始めて研究されたのは如何なる理由に

因るかと思ふに、燈臺元暗とでも云はうか人間界から隔け離れた學問が發達した後に人間に密接してゐる生理學だの心理學だのが研究されたのである、従つて人の心の研究と云ふことは極めて最近に發達したのであるから未だ充分な研究を了した者はないのである、さうして此種の學問は實に困難な學問であつて之を實際に應用することは甚だ至難のことである、然るに社會が進歩して生存競争が激烈となつてくるに伴ひ人の心の研究は頗ぶる必要な事項に屬して之が實際に應用されんことを志望する者が自然に多くなつて來たので吾人は吾人が交際する上に必要な事項に付て以下

本論に於て説明して見やう。

二 交際の必要

吾人が此世に生るときは先づ第一に食を求め衣を欲しさうして住家を要求するのが普通の状態である、然るに之等に不足を感じないときは相當の禮節を守つて他人と交際を爲すのが人類最上の慾望である、故に吾人は其交際を求める爲めに種々な工夫を用ひたり、人に信用を得る爲めに衣類を飾つたりして交際を要求してゐる是れ全く吾人類が社會共同生活を爲す前提要件である、云ひ換ふれば交際は吾々人類が社會共同生活を爲す

原素であつて社會を爲し國家を造る所以である、何となれば吾人々類は他の下等動物と異なつて單に自家保存の理法に因つて衣食住の満足を圖るのみでなく他に理性の命する慾望が存在してゐるので自ら交際の妙味を知り常に團體的生活を欲するのであるから自然社會を爲し國家を造る様になるのである。

斯の如く吾人が交際を以て最極無上の快樂とするのであるから常に交際の上手ならんことに努力してゐる、又交際は吾人が生存し發展する上に於て大に必要なことである、即ち交際が適當であるときは成功を増進し立身

出世の導びきを爲すものである、さうして又交際が上手であるときは快樂を求め、爲めの遊興を爲す場合でも相手方である遊女の性質を看破し手玉に取つて相手を爲さしめることが出来るので至極面白く遊興ぶことが出来るのである、況んや共同して事業を爲さんとする場合に於て其交際の秘訣を知得してゐないときは相手方と正反對の性質の人と結諾して欺罔されたり、内亂を惹起したりして失敗に終る場合などは實に尠なくない。

要するに交際は吾人々類に取つて最も必要なことであるのは勿論之が秘訣を知得して適當に應用するときは吾人の幸福を増進し發展の途を開發す

べきものである。

三

勤人と遊泳術

近頃は昔と異なつて勤人の範圍も大に廣くなつてきた、即ち物質文明に伴つて商工業が著しく發達し旺盛となつたので之等に關する會社や商店や工場が盛んに勃興した爲め勤人の數も著しく増加した、さうして人才に乏しい古代と異なつて官吏でも會社員でも其他の通勤員でも皆それ相當に競争があつて中々本人の志望通りの報酬を出さないのみならず仲間にあつても隨分昇級の競争は激甚なものである、或者は一生懸命に勤勉努力を爲して

其目的を達せんとし、或者にあつては精勤を以て昇級せんことを望み、或者は上役の阿諛に媚びて成功せんとし、或は又コンミツションを奉納して同情を求め他人に凌駕せんとするが如き方法は隨分數あるが、先づ今日の様な物質文明にあつては勤勉努力のみでは中々成功が遅い、それよりは上役に阿諛を媚び暇あることに住宅へ御機嫌伺ひに參り女中や書生の代理をするのが第一の早道である、俗に一引三金錢三實力と云ふが全く現在の趨勢は此の格言に反しない、故に勤人で成功しやうとする人は先づ此の格言に反しない様に勤めなければ如何に才知に秀でた人でも勤勉努力家でも他

を凌駕して昇級することは不可能である、さうして眞に上役に好かれんとするなれば誠意を認められる爲めに時々小使や給仕の代はりを爲したり日曜日などには御住宅へ奉伺を爲して同情を求めぬのも中々成績優良な方法である。

要するに勤人の秘訣は上官を手玉に取ることに發達してゐないと成功が遅い、さうして上官を手玉に取らんとするには先づ其の性質を知らなければならぬ、何となれば性質が異なつてゐるので其方法も自然異なつてゐなければ到底其目的を達することが出来ない、例へば上役が誠實な人で

勤勉努力家で情に動かされる人でないとするれば一引のみでは成功が出来ない、さうなれば勤勉努力を以て公明正大に事に當らなければならぬ、然し如何に誠實な勤勉努力家でも矢張感情の動物だから日曜日などに折々御機嫌伺ひをするのは適當な方法である、何れにするも勤人として成功せんとすれば單に機械的に奉仕するのでは他人に優先して功を奏することは最も困難なことである、故に勤人で成功せんとすれば先づ上役の性質を充分に看破して其性質に適當な方法に因つて上官の親任を得べく努力せなければならぬ、さうして親任された以上は其性質に相反することを排斥して

服従するときは永遠に引立られることは疑れない、尙自己の意思と上役の意思と衝突するが如き場合は先づ以て自己の意思を曲げ上役の意思に従ふべきものである。

勤人の遊泳術は以上の如きものであるから出来得る限り上官を手玉に取つて親愛されることに勤めなければ腰辨の目的は達しられない、之を勤人の遊泳術と云ふのである。

四 商人と外交術

現今の商人は昔の商人と異なつて取引關係が複雑であつて而かも不特定

の人と取引を爲すのであるから誠實でなければならぬのであるが、事實は之に反し相互に詐欺的行爲が伏在してゐる、掛引の上手な人で動もすると對手方を欺罔する人でなければ成功が出来ないのが常である、誠に帝國商業界の進歩發達上憂慮すべきことである、甚たしきに至つては惡辣な方法に因つて自己の利益を獲得せんとするが如き者も亦尠くない、かくては遂に自己の信用を失墜し商人として立つことの出来ない悲惨な状態に陥るが如き結果になる、故に商人にして公明正大に誠實を旨として成功する方がなければならぬ、之則ち商人に外交手腕の必要な所以である、さう

して其外交は悪辣な方法に出でずして掛引が上手でなければならぬ、掛引が上手な商人は信用を害せず相手方の感情を損はずして着々と成功するのである、尙掛引も程度の問題であつて而かも各人に同一のものでない、各其性質に應じて之を實行せなければ取引關係を遅延せしめ商取引の敏活を害し又取引の目的を達することが出来ない様になる、従つて商人が掛引を爲す場合にも相手方の真相を知つて取引を爲すのか肝要である、尙相手方の真相を知るときは其人の掛引の爲めに釣り込まれ損失を蒙る様なことは絶対にない、故に商人に取つては相手人の真相を知るのが最も必要なこ

とであつて亦此程困難なことはない、併し種々な點から觀察して研究するときは一而識もない人でも大體其性質を看破することが出来るのであるが此ことに付ては次節で説明する處があるから本節では只だ商人の外交のことに付て尙一言しやう。

以上説明した通り今日では商人の營業區域が廣くて相手方が一定しないのが常である、故に往々一而識もない人と取引を爲す場合は尠なくない、かゝる場合に當つて相手方の感情を損ふ様なことがあつては其目的を達することが出来ないから此の點に留意してをかねばならないのは勿論、平素

取引を爲す商人間にあつても亦此點に心がけてゐなければ折角の得意も他人に侵さるゝこととなる、故に吾人は是より商人に必要な外交に付て注意すべき事項の大略を左に説明しやう。

一、商人は應接に付て丁寧でなければならぬ。

何人を問はず客と應接する場合は丁寧親切でなければ交際は出来ぬ。いかに就中商人にあつては商事買賣てふ弱い商賣を爲すのであるからとりわけ客に對して丁寧でなければ成功が出来悪く。

二、商人は客に對して親切でなければならぬ。

若し商人にして不親切なときは遂に信用を害し好評を受けることは到底出来ない。

三、商人は履行が確實でなければならぬ。

若し商人にして履行に付て不確實なことを爲すときは信用を維持することが出来なくなつて遂に發展を害せらるゝこととなる。

四、商人は忍耐が強くなければならぬ。

昔から商人は恰も牛のヨダレの様でなければならぬと云ふが全く商人に忍耐がないときは何日も客と衝突したり又取引を強ゆること

が出来ないので發展しないのが常である。

五、商人は豫め相手の真相を知る必要がある。

何となれば商人は人に應じて掛引が必要であるから相手方の真相を知らんときは其掛引を充分に發揮することが出来ない爲め大に發展することが出来ない、況んや相手方の好妙な掛引に釣込まれて損失を招く場合は尠なくない。

五 事業家と社交術

事業家と云へは多くの人を使用し、多くの人と取引をせなければならぬ

いので、時には一面識もない人を採用したり、未だ嘗て交際しない者と取引を爲す場合は實に尠なくない、さうして一面識もない人と多く取引をなすは事業の發展を導くものであるから事業家たるものは須らく交際を求め廣く交換の途を開かなければならない、抑も現今の事業は古代と異なつて取引區域が廣大であればある程、夫丈利益が多くあつて發展を導く事となるのである、故に苟しくも事業家たる者は出來得る限り廣く交際の途を開き相互に利益の交換を圖らなければ成功は出來にくい、又人を使用するに於ても大に注意を要しなければ事業の盛衰に關係を及ぼし遂には失敗に終

る場合も甚だ尠くない、故に事業家は商人と同しく交際が肝要であつて而かも其交際の適不適に因つて事業の盛衰に影況を及ぼすことは賭易きの道理である、言葉を換へて云へば事業家にとつて社交は生命とも云ふべき者である、即ち一つの方面に於ては好妙な社交に因つて一面識もない人と取引を爲し、他の方面に於て適當な使用人を採用し其使用人をして充分に働かせしめるだけの外交手腕がなければ事業の發展は期しがたい、さうして之等の外交手腕を發揮せんとするには先づ相手人の性質を看破して其性質に適應した事項を擧げて相手方の感情を損はない様に注意し相手が興に乗

したとき自己の注文を持出すときは容易に其目的が達しられる、例へば多血性の人間に向つたときは同情に訴へ又可成感情を興奮させて奮起せしめることに勤めるのである、斯の如くにして應接するときは如何なる難問題でも容易に解決することが出来ることは疑れない、尙又使用人を採用する上に於ても可成自己と大同小異の性質の者を選んで採用せなければ其使用人は不適當であつて遂には自己を侵すこととなるのであるから大に注意する必要がある、茲に於てか吾人は事業家が巧妙なる外交手腕を發揮するに必要な要件を擧げて諸君の参考に供することにしやう。

一、事業家は大胆でなければならぬ。

凡そ何事によらず事業を営まんとする人は須らく大胆でなければならぬ、何となれば如何なる事業を問はず榮枯盛衰は免れない事實である、故に投資する金必ずしも成功すべきものでない、然るに之を躊躇して投資すべき時期に投資を怠つた場合には利益を獲得することが出来ないのは勿論他人との取引に付ても機会を失し取引を害することとなるので事業を爲さんとする者は大胆な人でなければならぬ。

二、事業家は亦小心な所がなければならぬ。

事業を爲さんとする人は須らく大胆でなければならぬが餘りに大胆過ぎると多く失敗する恐れがある、就中使用人を採用する場合の如きは細密の注意を要せなければならぬ、又使用する上に於ても用意周當でなければならぬ、殊に會計の如きは一層細密の取締を必要とするのである、故に大胆のみでは成功が出来悪くい點がある。事業家は不得要領で而かも活潑でなければならぬ、事業家は大胆であり且小心でなければならぬので常に活潑でなければならぬ。

が餘り明瞭すぎると掛引が出来ないので不得要領の點がなければならぬ。

四、事業家は相手方の真相を知らなければならぬ。

事業家にして相手方の真相を知らなるときは其相手方の爲めに欺罔されたり巧妙な掛引に釣り込まれて意外の損失をする場合が尠くない、別けて自己が掛引を爲さんとする場合にあつては尙更其必要を感じるのである。

交際秘訣の要件

自動的的要件

一 總説

吾人は交際の要件として自動的的要件と他動的的要件とに別つて説明せんとするのである、即ち自動的的要件と云ふのは交際の相手方をして不快を惹起さしめない様に力めることを云ふのである、さうして他動的的要件と相俟つて交際の秘訣を發揮するのである、之等の兩者が平行するに於て始めて人

に好まれて成功を爲し、上手に金銭を儲けて立身出世の途を開発すべきものである、故に交際の秘訣を學ばんとするには先づ第一に自己をして其相手方を不愉快ならしめない様にすることを研究せなければならぬ、若し相手方に不愉快の情を催させるときは如何に他動的要件を具備した社交を爲すも到底其者の信用を得ることは出来ないのみならず其交際は永久に持續することは出来ない、却つて相手方より疑惑を懷かれ感情が衝突する場合は尠なくない、茲に於てか交際の圓滿を期せんと欲せば先づ自己を顧みて自己の行動若くは性格を知得して於かねばならない、さうして交際は吾

人々類が最上の快樂を求むるものであるから相當の禮節を遵守し常に自己の行ひに注意して終始一貫持續せなければ交際の妙味を味ふことが出来ない、即ち適當な交際は互に慾望を満足し、相互に利益の交換を媒介するものであるから、社會が進歩するに伴つて益々其必要を感じる様になるのである、故に各人は自己に利益なる交際の途を開いて其幸福を増進せなければならぬ、茲に於てか吾人は以下項を別つて交際秘訣の自動的要件について説明して見やう。

二

人に好かるゝ交際は活潑なるべし

人には淡白で活潑な者と陰險で不活潑な者とがある、さうして淡白で活潑な者は交際に於て多く人に好かるのが常である、然るに陰險で不活潑な者は動もすると人に疑惑を懐かれ多く歓迎されないのが普通である、故に一般的に人に好かるゝ交際をせんとすれば須らく淡白で而かも活潑でなければならぬ、尙ほ言語等も明瞭でハキハキした態度で應じなければ相手方の不快を醸す事となるから廣く交際せんとする人は常に活潑な態度で淡白な氣質を表して人と應對しなければ如何に才能が秀でてゐてもどれだけ人心看破術に優れてゐても巧妙な交際家と云ふ事は出来ない、必ず外交

家と云へば淡白であつて活潑な人である、故に不活潑な人でも活潑に装はなければ廣く交際を爲し眞の社交は到底不可能である、試みに世上に社交家と云はれる人を考慮して見るに皆活潑で淡白な質の人が多くて陰險な不活潑な者は尠ない、要するに一般人に好かるゝ人は必ず活潑で淡白で而かも言語動作がハキハキとした人である、又かゝる人が交際の妙味を味つてゐて交際に因つて立身する人である、殊に之の種の人で常識に秀でた者は交際に因つて自己の幸福を増進する人である。

三 人に好かるゝ交際は誠實なるべし

一般人に好かるゝ交際を爲すには單に活潑なばかりでは永久に其交際を交ふることは出来ない、云ひ換ふれば誠意のない交際は永久に之を持續することが出来ない、必ずや中途に於て不快を生じ或は衝突して其交際を失ふことは争はれない事實である、況んや自己が相手方の爲めに利益を受けんとする場合にあつては尙更誠實に其人に盡すの心懸けがなければ其交際は持續さるべきものでない、又自己より先輩の人に交際する場合に於ても同一である、抑も交際は單に快樂を求め爲めに之を爲すのではない、此の交際を利用して互に利益を交換せんとするのであるから互に誠意を以て

交ることを要するのである、俗に遊びの友はあるが貧の友はないと云つてあるが誠に然りである、總て動物は自家保存の理法に因つて悪しきを抛て善きに向ふのが自然であるが就中人類にあつては他の動物と異なつて社會共同生活を爲すに非ざれば圓滿な發達を期することが出来ないのであるから自己の利益と團體員の利益とが相反した場合には其の團體員の爲めに讓歩せなければならぬのは勿論、互に讓歩して利益を交換すべきものである、然るに自己は讓歩することなく利益獲得にのみ吸々とするときは相手方より排斥されるは云ふまでもなく遂に社會の火より見棄られ信用を

失墜しつたふすこととなるのである、故ゆゑに交際かうさいを適當てきとうになし之これに因よつて立身出世りつしんしゅつせの途みちを開發かいはつせんとすれば先まづ自己じこが誠實せいじつであることを相手方あひてかたに知しらしめる必要ひつがある。

四 人に好かるゝ交際は常識に通ずべし

常識じやうしきに秀ひいでた人ひとが交際かうさいが上手じやうずであると云いふのは何事なにごとに因よらず知得ちとくしてゐるので總すべての人ひとに對たいして談話はなしの相手あひてが出来できる爲ためである、即すなはち吾人ごじんは一若もしくは二以上いじやうの特徴とくちやうを有いうし其特徴そのとくちやうのことに付ついて談話はなしをされると何なんとなく愉快ゆくわいの情じやうを催もよほし知しらずくの中に快感くわいかんを覺おぼへ其人そのひとを愛あいする様やうになるのである、

故ゆゑに其人そのひとの特徴とくちやうに向むかつて談話はなしを爲なし快感くわいかんの情じやうを惹起ひきおこさしめて交際かうさいするは圓滿まんな交際かうさいを持ぢ續ぞくすることが出来できるのである、然しかるに人皆ひとみな同種どうしゆの特徴とくちやうを有いうるものでないから其特徴そのとくちやうのことを談はなせば興きやうに乗じようじて面白おもしろく交際かうさいが出来できることとは知しりながら其特徴そのとくちやうの事實じじつを知得ちとくしてゐない爲ため之これを爲なすことが出来できないので充分じゅうぶんな交際かうさいを交まふることが出来できない場合あひが多た々たある、此この場合あひに當あたつて常識じやうしきに通つうじた者ものであれば其特徴そのとくちやうに向むかつて突進とつしんすることが出来できるので外やわい交かうに於おいて勝利しょうりを得うることが出来できるのである、さうして常識じやうしきに通つうじた者ものは總すべてのことに明あかから何事なにごとに因よらず臨機りんきの行なひが出来できるのみならず人心じんしんを看かん

破する上に於ても確かに他に優れてゐる、但此の種の人は忍耐心に缺けた所があるから此の點に深く注意してゐなければ折角の交際も感情衝突の爲めに失ふ場合は尠なくない、併し茲では交際上常識が必要であることを云ふのであつて常識に通じた人必ずしも交際家なりと斷言するのではな
い。

五 人に好かるゝ交際は忍耐あるべし

上段説明した通り交際は一方に於て快樂を求め他方に於て相互に利益を獲得せんとする目的が存してゐるのである、故に相互間に精神上若くは物

質上の利益交際を圖らんとする目的が存在してゐることは争はれない事實である、従つて利益が相反した場合には到底圓滿な交際が交はされるものでない、必ず相互間に精神上又は物質上の何れかの利益が之に伴はなければ交際てふことは出來得るものでない、殊に物質上の利益を獲得せんとする者の間にあつては利益交際てふことは明かである。

斯の如く交際は利益交換を以て前提要件としてゐるので互に利益を獲得せなければ圓滿な交際は持続することが出來ない、一人が多く利益を得他の一人が之に反して尠なき利益を得る場合には其交際は永續すべきもの

でない、必ずや精神上に於て物質上に於て相平均すべき程度の利益交換が
介在しなければならぬ、單に快樂を求むる爲めの交際としても一方には
利益あり他の一方には大なる損失があるとするれば再び其交際を爲すことが
出来ない様になる、況んや物質上の利益交換を以て交際した者にあつては
其利益が互に相平均せなければならぬから或場合には相手方の爲めに讓
歩するの忍耐がなければならぬ、まして感情の爲めに支配されて争ひを
生ずる様なことがあれば其交際は不可能である、故に互に讓歩するの忍耐
がなければ永久の交際は出来ない、然るに吾人々類は自家保存の大法に制

せられ自己に利あるときは飽までも之を主張するのが常である、然るに之
等を飽までも貫徹せんとするときは圓滿な交際を爲すことが出来ないのは
勿論社會共同生活をなすことが出来なくなる、故に人若し圓滿な交際
を爲さんとすれば須らく忍耐心を養成し感情に支配されて争ひの生じない
様に注意せなければならぬ。

六 人に好かるゝ交際は清潔を守るべし

以上説明した通り交際は人類最高の慾望であるから先づ以て自己の身體
が清潔でなければならぬ、而かも人に好かるゝ交際を爲さんとするには

相手方をして愉快ならしめる態度に出でなければならぬ、即ち相手方をして愉快ならしめるには自己の身體が不潔ではならぬ、若し不清潔な儘で應接したときは相手方をして悪感情を惹起さしめ辱視されることとなるのである、惟ふに吾人々類は悪しきを避け善に向はんとするのが本能の然らしめる處である、況んや交際の如き高尚なものにあつては其善に向ふのが自然である、従つて同じ交際を爲すに付ても清潔を重ずる人と不潔な人とは求交際者にとつて著しい差異がある、即ち清潔な人に交際を爲した場合は感想は何となく愉快で厭味が起らないが不潔な人と交際した場合に

は之と反對に不愉快な感じを催させ相手方を嫌疑する様な感じになる、故に一面識もない人と交際を爲さんとするには此の點に深く注意して置かなければ如何に巧妙な外交術を以てしても完全な交際を爲し得べきものでない、若し交際を交ふことが出来るとしても相手方をして侮辱の念を惹起さしめ大に不利益な地位に立たなければならぬ、さうして不潔な人は一見だらしがなくて貧相な感がするので相手方が深く信用を置かないのが常である、何れにするも不潔にしてゐる人は交際上最も不利益な地位にあることは交際が最高の善なりと云ふことに因つても明かな事實である。

要するに交際に因つて精神上若くは物質上の利益を得んとすれば先づ以て自己の身體の清潔ならんことに留意し相手方に悪感情を惹起さしめない様にするのが前提要件である。殊に神経家の人や清潔好きの人に接した場合に於ては之の點が主要の事項である。最も自己より劣等の地位にある人に接した場合は左程問題にはならないが自己より眼上の人に交際を求めんとする場合には不潔な儘で其人に接するのは獨り交際の秘訣に反するのみならず禮儀を失することとなるのでかゝる場合には尙更注意して出來得る限り清潔を守らなければならない。

七

人に好かるゝ交際は自己の性質を知得し置く可し

交際は人類最高の善であつて社會を造り國家を爲すも皆固は交際より生ずるのである、況して今日の如く社會全般が共同生活をせなければ圓滿な生活を持続する事が出來ない時代にあつては交際の貴重なることは云ふまでもない事實である、云ひ換ふれば適當な交際は吾人の幸福を増進し吾人をして立身出世の導びきを爲すものである、さうして交際は最高の善であるから圓滿な交際でなければ其目的を達し得べきものでない、必ずや精神

上及び物質上の何れかに於て相互に利益を交換し得べきものでなければ其
交際は永續すべきものでない、茲に於てか交際を交へんとするには其相手
方である被交際者と大同小異の性質でなければ圓滿な交際を持続すること
は到底不可能である、さうして相手方の性質を觀破するに先ちて自己が如
何なる性格の者であるかを知得して置かねばならない、殊に自分の特徴や
缺點は克く之を會得してゐなければ相手方をして充分な愉快を與へること
は不可能である、況んや缺點を諒解してゐないとすれば相手方の感情を害
することは往々ありがちのことである、殊に先方の性格を觀破せんとすれ

ば先づ自己の性格を知らなければ其目的を充分に達し得べきものでない、
自己の性格の何たるを知らずして何で他人の性格を觀破ることが出来ませ
うか、又自己の長所や短所を知らずして先方を愉快ならしめることが出来
得る筈はない、却つて先方の感情を損ひ遂に衝突することとなるのが常で
ある、故に人に好かるゝ交際を爲すには必ずや自己の性格を知得してゐる
ことが肝要である。

八

人に好かるゝ交際は品格を重んずべし

以上説明した通り交際は最高の善であるから交際を求むる者に於て品格

を重じなければならぬのである、然らずんば其交際は圓滿に持續せらるべきものでない、必ずや其間に於て感情の衝突があるか又は侮辱せらるゝか乃至は相互に意思の疏通を欠き交際を失ふのである、就中自己より目上の人と交際せんとするには品格を重じて交際を求めなければ到底其目的を達し得べきものでない、よし交際し得らるゝとしても其交際は完全なものでないから親愛を受くべきことは出来ない、従つて自己が其人に因つて精神上及び物質上の利益を享けんとしても不可能である、又被交際者をして自己を尊敬させんと欲すれば先づ自己より先方の地位を認め尊敬せなければ

ば自己に尊敬を受くることは出来ない、例へば同等の人に對して君と稱ぶときは相手方も君と云ふのが常である、然るに貴殿と云ふときは先方も亦貴殿と云ふのが普通である、斯の如く自己に尊敬を受けんとすれば品性を重じさうして先方の地位を認めなければならぬ、殊に被交際者が感情に強い人で、神経家であるときは一層之の點に注意してゐなければ深い交際を交へることは不可能の事實である、まして女子にあつては品格を重じ相手方の地位を認めることは社交の要訣である。

九、人に好かるゝ交際は禮儀を重ずべし

吾人が衣食住に不足を感じないときは禮儀を守つて他と交際するのが最上の快樂であることは前既に之を説明した處である、故に禮儀は交際上缺くことの出来ない肝要な事項である、従つて禮儀を失した交際は永續すべきものでない、殊に自己より目上の人に對しては、禮儀が第一の要素である、若しこの要素を缺いた交際ありとするも、眞の交際でないから其の交際に依つて利益を受けんとしても不可能である、故に自己より目上の人に交際を求め其交際に依つて利益を受けんとするには必ず相當の禮節を守らなければならぬ、則ち一面識もない人を訪問する場合は先づ相當の衣類

を着し、さうして其人を訪ねんとするにも御主人若くは先生に御面會を致し度旨を申込みて自己の名刺を出すのである、斯して面會を許された場合は丁寧な挨拶を爲し活潑な態度で而かも謙遜した詞で話談を爲さなければ被交際者に親愛せらるゝことは出来ない又自己と同等の地位にある人でも可成其相手方に對して禮儀を失ない様にせなければ其交際を永續し互に利益を交換することは出来なくなる、尙又目下の者と雖も交際を爲す以上は禮節を失ひ侮辱の態度に出ない様にしなければ永久に交際し得らるべきものでない、就中婦女子が交際を求めんとするには男子以上に禮節を重じな

ければ他人より輕侮されて地位を失ふこととなるのであるから禮儀作法は女子にとつて生命とも云ふべき肝要なものであることを忘れてはならない、若し女子にして禮儀作法を知得しないときは總ての交際は失敗に終るのであるから大に注意してゐなければならぬ。

十

人に好かるゝ交際は明瞭なる言語を用ふべし

前屢々述べた如く交際は人類最高の善であるから相手方をして快感の情を惹起する様にせなければならぬ、故に被交際者をして快感の情を催させるには須らく言語が明瞭でなければならぬ、況んや其交際に因り人に

好かれて成功し上手に金錢を儲けて立身の途を開發せんとするには必ず明瞭な言語を使用せなければ其目的を達することは出来ない、若し不明瞭な言語を使用するとすれば相手方をして不快の情を惹起さしめるので眞に交際を交へないこととなる、茲に於てか交際自動的要件として明瞭な言語を使用するは最も必要なことである、就申上級の人に對する場合に於て不明瞭な言語を使用するが如きは單に交際秘訣の要件を缺くのみならず禮儀を失し感情を損はしめることとなる、尙婦女子の如き感情の鋭敏な者にあつては此のことが肝要な事項となつてゐる。

要するに交際を以て相互に物質上の利益を交換し様とする場合にあつては言語のみならず、總てが明確を期しなければ相手方に疑惑を懷れ利益交換てふことは破壊されることとなるのである、尙又單に一時の交際としても言語若くは態度が明確を期しないときは相手方をして快感ならしめることが出来ない、其交際は完全なものでない、殊に遊興の相手を爲す場合の如きは最も此の點に注意してゐなければ相手方をして遊興の目的を充分に達せしめることは不可能のことである。

第二節 他動的要件

第一項 總説

古代水草を逐ふて轉々する時代に於ては、他と交際し、互に利益を交換する必要は多くなかつたであらうが、現在の様に、社會が進歩して各人の業務が分業となつて來ては共同生活を爲し、互に利益交換の途を開かなければ生活することが困難になつたので、其交際の必要なことは多く云ふまでもないことである、就中事業家商人等は其必要が最も甚だしいものであることは以上屢々述べた所である、即ち之等の人は一面識もない人と交際し互に利益を交換しやうとする場合が多々ある、かゝる初對面の場合に

當つて、先方の性格を豫め看破して應接するときには非常に利益があることは謂ふまでもないことである、即ち初対面の場合にあつては各人自家保存の性に因つて夫れ相當の懸引をなし容易に眞意を明さないのが常である、或は欺罔行爲に出でんとするあり、或は強迫手段に出づるあり、其他惡辣な行動に及ぶ場合は尠なくない、此の場合に先方の性格を大體でも看破して交際したならば、以上の災害を免ることが出来るのである、尙又單に快樂を求むる爲めの交際でも其相手方の性質を知らないときは、先方の意思に反する談話を爲し、疑惑を招く舉動を爲し、其人をして感情を損は

しめて交際を失ふ場合は實に尠くない、甚だしきに至つては自己の性質と反對の人と交際した爲め感情の衝突を爲し意外の損失を蒙る場合もある、かくては快樂を求めんとして折角に交際を交へたるに拘らず、却つて不愉快を生ずる原因となる、故に單に快樂を求めん爲めの交際と雖も、相手方の性格を知得して交際せなければ其交際の目的を達することが出来ないこととなるのである。

殊に相手方の性格を看破して交際するときには先方の感情を害せざるは勿論、相手方をして快感の中に深き交際を交へ永久に交際を持続することが

出来る、何となれば相手方の性格を知るときは其性格に適應した談話を爲し、其者の欲する行動を爲すことが出来るので相手方は愉快に交際を交へてくるのである、然るに初対面の場合に先方の性質を知るのは最も困難なことであつて今尙學者間に研究を了した者が無い、併しながら其對話しつゝある間に現れる先方の特徴に付て研究するときは大體の性格を知ることが出来る、故に吾人は其交際上現れる特徴の種類に付て各人の性質を看破することに努めて見やう、之を交際秘訣の他動的要件と云ひ自動的の要件と相俟つて完全な交際を交へることが出来るのである、以下項を別つて

説明することにしやう。

第二項 克く曉舌る人に接した場合

人若し衣食住に不足を感じないときは相當の禮節を守つて他人と交際するものが最上の快樂である、さうして交際は吾人々類の特徴であつて他の下等動物には殆ど此例を見ない所である、殊に現今の様に社會が進歩して共同生活を爲すに非ざれば生存することが出来ない様になつては其交際は單に快樂を求むる爲めのみでない、吾人が此の世に生存する以上は他と交際し相互に利益を交換せなければ自己の幸福を増進することが出来ないの

である、故に如何なる人と交際を求められるやも斗り知れず、又一面識もない人に交際を交へなければならぬ場合もある、かゝる場合に相手方が克く噤べる者であるとすれば、如何なる應接をなせば其人と圓滿な交際を交へることが出来るやと云ふに先づ第一に先方の性格を看破せなければならぬ、さうして克く噤舌る者の中にも二種ある、其一は何事に因らず他人と談話をするのが非常な快樂の様に思つてゐる人である、其二は自分勝手の噤舌り方で自分の信じたこと自分が快樂としてゐることに付ては我を忘れて噤舌るか夫以外のことに付ては噤舌らない者がある、先づ第一種の

者に付て見るに此の種の人は常識には通じてゐるが一般に輕卒な傾きがあつて忍耐に缺けてゐる、さうして感情に支配され易くて理窟家が多い、又自分が常識に通じてゐるので他人の談話中にでも嘴を入れたがる傾きがある、かゝる人に接した場合には相手方の感情を害せない様にしてゐれば圓滿に交際を持続することが出来るが何分感情が強くて忍耐に乏しい傾きがあるから此の點に注意してゐなければ交際を永遠に持続することは出来ない、次に第二種の者の性質は第一種の者と大同小異であるが我儘が強くて最も情に支配され易い質の者が多いから、此の種の人に接したときは先

方の感情にさからはない様に深く注意し煽動的に出でたならば容易に手腕に服させることが出来る。

第三項 無口の人に接した場合

多く口を開かない人は平素温和な方で一見すると一般に陰険らしいがその一概に斷言することは出来ない、之の種の人の中にも二種ある、其一は無口であるが性格は至つて淡泊な比較的善良な人であつて小事に冷淡な忍耐に秀でてゐる人である、其二は不活潑で而かも陰険な質で物事に當つて速斷することが出来ない執念深い人である、故に第一種の人には男性的の人

であるから事に當れば熟慮の上でなければ斷行はせないが一旦斷行した以上は充分に目的を貫徹せなければ已まないと云ふ人であるから、或點に於て云へば強情な所があるかも知れないが一旦感情に支配された以上は容易に之を變更することはないので交際した以上は何日まで永久に交際を交へることが出来る人である、併し初對面の場合に於て親しい交際を爲すことは或は不可能かも知れない、又感情に支配されないから煽動的方法に因つて感情を興奮せしめんとするのは不適當である、故に此の種の人に接した場合は公明正大に交際を交へなければ到底其目的を達することは出来

ない、従つて阿諛に眉びんとする方法も不可能である、故に結局此の種の人に交際を求めんとするには誠意を認めさせる方法をとらなければならぬ。

次に第二種の人に接する場合には忍耐強く交際を求めなければ其目的を達することが出来ない、又交際を交へるとしても常に交際を要求する者に於て忍耐を持てなければ其交際は永續することは出来ない、何となれば相手方である先方が不活潑で而かも事に當つて速断が出来ないのみならず執念深い質の者である故に氣の短い者にあつては其交際を持続することが

出来ないからである。

第四項 度胸のある人に接した場合

昔から男に度胸、女に愛嬌と謂ふて共に特有性の様に思はれてゐる、さうして男子に度胸の必要なことは云ふまでもない、即ち男子として一般に度胸を有する者は適當な性質であつて剛膽な落附がある者が多い、又小事に付て無頓着な淡泊な者が多い、故に此の種の人に接した場合には可成小事に付て注意する様なことは避けなければ相手の感情を害する場合がある、然し此の種の人一般に忍耐には強い方であるから何事に因らず激す

るときは充分に其目的を貫徹しなければ止まると云ふ人であるから一旦交際したときは容易に其交際を破壊する様なことはしないが、感情に支配されたとすれば中々強情である、然るに此の種の者にも二種類ある、其一は剛膽であつて而かも活潑な人である、其二は強情で不活潑な人である、第一種の者は交際するに適當な人であるが第二種の人は交際するに最も困難な人である、かゝる人に接した場合には先づ第一に先方の特徴に向つて突進し快感を惹起さしめ、さうして先方の云ふが儘爲すか儘に放任し勤めて先方の感情を害しない様にせなければ交際は出来ない、女子であつて此の

種の者は俗に鬼女と云ふべきものである、即ち我儘が強い情に支配されない質で薄情な女であるから中々眞の交際をすることは出来ない、併し偶れには此の種の女で義侠心に富んだ者がある、かゝる女は自己を忘れて其人に盡す女であるから其人にとつては親切ではあるが一般の交際としては至極不適當な女である。

第五項 愛嬌のある人に接した場合

古代にあつては、男たる者は猥りに喋舌ることを禁じ愛嬌のあるのを尊敬しなかつたが現在の様に社會全般が物質主義に傾き、且つ生存競争が激

甚になつたので、却つて無口の者や愛嬌のない者は現代遅れになつてしまつた、即ち愛嬌は女性的のものであるから男子に愛嬌は必要がない様だが現在の様に物質主義に傾いた時代にあつては事業を爲す者又は商賣を爲す者は云ふに及ばず、雇人でもお世辭があつて愛嬌のある者が成功すると云ふ様な状態である、さうして愛嬌のある者は一般に野心家であるから虚榮心が高い、又常識に通じ易い質であつて社交的人が多い、併し軽卒で忍耐に缺けてゐて、情に支配され易いから情慾にも強い、之の種の人に接した場合には先方が社交家であるから一面識もないときでも容易に交際を交

へることが出来るが、何分先方が情に支配され易い忍耐に乏しい人であるから之の點に注意して交際してゐなければ永久に交際を交へることは不可能である、要するに女子には此の種の者が最も多いから女子に交際を求めんとするには先づ第一情的に出で、さうして先方の感情を害しない様に煽動的に突進すれば容易に交際を爲すことが出来る、併し情に支配され易くて忍耐心に缺けてゐるのが常であるから、永久の交際を爲さんとすれば常に相手方の感情を害しない様に注意してゐなければ其交際を持続することは到底出来ない。

第六項 活潑な人に接した場合

現在社會では男女の區別なく活潑な質の者が愛される様である、就中男子は活潑であつて而かも剛膽な者が尊重されるのである、然るに活潑な者の中にも二種ある、其一は活潑であつて而かも剛膽な者である、此の種の者は事に當つて克く堪へ、又激するときには充分に其目的を達しなければ已まんと云ふ質である、かゝる人に接した場合には矢張忍耐強き點を見せ公明正大に突進せなければ交際を求めることが出来ない、併し一旦交際を交へた以上は何所までも親切に交際してくる人であるが中々信用を置くまで

には時日を要するのが常である、其二は活潑であつて而かも小膽な人である、此の種の人は情的の人であるから熱し易くて冷め易い、忍耐に缺けた虚榮心の高い女性的の質の人である、従つて常識には通じ易い人であつて社交は極めて上手であるから容易に交際を交へることは出来るが感情家であるだけ人と衝突し易い、故に交際を求めた者に於て感情に支配されない様に注意してゐなければ折角交際しても之を持続することが出来ない結果になる、この種の者は女子に最も多い、さうして女子であれば曉舌で動もするとおてんばになり易い質である、かゝる女に交際を求めるのは容易で

あるが心が變り易い特有性を持つてゐるので永續することが困難である、
又或は我儘になり易い性格を有してゐるので時によると増長して相手方の
感情を損ふ場合も尠なくない、俗に女子と小人は養ひ難しと云つたのは蓋
し此の意味である、故に此の點に深く注意して交際を交へなければならな
い。

第七項 小心な人に接した場合

人に耻かしがる者は度胸がなくて女性的の人であることは多く云ふまで
もないことである、さうして此の種の人は物事に熱し易い、冷め易い情的

の人が多い、故に情慾には強くて虚榮心が高いのが普通である、併し情的
の人間であるだけに常識には通じ易いが、何分小心であるから社交を爲す
のを好かない、然し一旦交はりを結んだときは情に厚いので人と衝突する
様なことは尠ないが忍耐に缺けた點があるから、感情に支配されることは
あるかも知れない、故にこの種の人に交際を求めたときは力めて相手の感
情を害しない様に注意してゐれば圓滿な交際は出来る、さうして情的の人
が多いから物事に感染し易くて誘惑され易い傾きがあるから、煽動的に突
進すると快感に乗じて眞意を明かして交際を交へてくる人であるが、反對

に出るときは感情に支配されて疑惑を懐く様になり、交際を交へることは不可能である、尙又小心なだけに向つて不平は云はないが蔭に廻つて不平を云ふのが常である、就中女子にあつては其最も甚だしいものである、かゝる女子に交際を交へた場合には決して自己の秘密に属することは談話されない、即ち一見すると眞面目で親切な所はあるが何に分向つて眞意を明かにすることの出来ない人であるから何處かで其不平は表現されるのである、要するに此の種の人は小心なだけ性質は善良な方であつて悪辣なことは出来ないが蔭口を云ふ様なことはあるから此の點に注意して交際を交へ

たなれば永遠の交際が出来るのである。

第八項 理窟を云ふ人に接した場合

凡そ吾人々類は他の動物と等しく自家保存の性に因つて自己を保護するのは自然の然らしめる所であるが、就中人類にあつては自己を利せんが爲めに種々なる抗辯を爲し辯解を爲すのが普通である、言葉を換へて云へば自己を守る爲めには他を排斥し自己に不利益の生ずる場合には何等かの理窟を附けて之に對抗して行かんとするのが本則である。

然るに理由の如何を問はず無暗に理窟を比べたがる者がある、かゝる人

の性質を考査して見るに、主に我が強いから、強情であつて負けざらいである、さうして情に支配されない頑固な者が多くて人と折合の附きにくい人である、故に社交は上手な方でないから商業などには不向な人である、かゝる人は中々交際が圓滿に出来にくい故に交際を求めざる者に於ても餘程骨が折れる、併し如何に理窟家でも君子危険に近寄らずてふ方法で云ふが儘爲すが儘にして交際したならば如何に頑固な者でも容易に交際をするこゝとが出来、斯の如くにして交際したときは理窟を比べることも出来ず、遂に信用を置かなければならない様になる、若し此の種の人に反抗したと

きは遂に感情を損ひ交際することが出来ないのは勿論疑惑を懐かれ攻撃のまゝとなり特意の理窟を比べられる結果になる、故に一旦交際を交へたときでも可成特意の理窟を出させない様に注意して機嫌氣襍を取る様にしてゐなければ永久に交際を交へ互に利益を交換することは不可能である、尙又同じ理窟家でも人の缺點ばかり見出して理窟の材料にする人がある、この種の人一般に小心な方て膽量のある人ではない、故にかゝる人に應ずるには、泣く子と兒童には勝てないてふ格言に因つて相手に反抗はない様た氣を附けて交際せなければ其目的を達することは出来ない。

第九項 酒好きの人に接した場合

酒を飲むときは吾人の身體を刺激し精神作用をして著しく興奮せしめるのが常である、言葉を換へて云へば飲酒の結果は生理的變化を惹起し吾人をして快不快の感情を催させることとなるのである、故に酒を多く欲する人は平素一般に物事に感染し難い人であつて剛膽な者が多い、然るに酒を飲むときは平素の氣質と全く異なつた性格を帯びてくるのが本則である、之即ち平素物事に感染し難い反映であつて自然である、かゝる人に接し交際を求めんとする場合には速かに信用を得んとして交際を求むるのは

不可能である、故に着々と公明正大に目的に進んで行かなければならない人である、何となれば平素は容易に情に動かさるゝ人でないから情に訴へて突進しても到底其目的は達しられない、然るに同じ酒好きの人でも平素活潑で情に支配され易い人は感情に訴へて突進すれば容易に其目的を達し得べき人である、併し第一種の人と異なつて忍耐に缺けた野心の強い人であるから、動もすると感情に支配されて交際を失ふが如き場合は尠なくないから此の點に注意してゐなければ永久の交際は出来ない、女子にして酒を好く者は概して之の種の人である、さうして女子は男子より以

上に情に支配され易いのが常であるから一層この點に注意して交際を交へなければ圓滿な交際は出來難い、併し此の種の人は男女の區別なく常識に通じ易い社交的人であるから初めての交際は簡單であつて至極圓滿な方であるが永久に交際を交へんとするには困難な所がある、然るに先方の感情を害しない様に心掛け煽動的に進んでゆけば其交際は永久に持續されるのである。

第十項 芝居好きの人に接した場合

人の慾望は千差萬別であつて各人皆其望む處を異にしてゐる、就中嗜好

に至つては皆同一でない、殊に芝居の如き吾人の感情を刺激して喜怒哀樂を催させて快感又は悲哀の情を惹起さしめるので愉快を感じるのである、故に情に支配され易い人は一般に芝居好きであるから結局熱し易い冷め易い忍耐のない者が多い、即ち芝居好の人は外部よりの刺激に因つて感情に支配され易い人であつて酒好きの者は外部よりの刺激が少ない爲め酒に因つて内部から刺激される人である、従つて芝居好きの人は常識には通じ易いが情慾に強い自我の強い忍耐力に缺けた者が多い、斯の如く芝居好きの人は物事に熱し易い常識的人であるから他と交際するのは巧いもので

ある、故にかゝる人に交際を求めのは最も簡單である、さうして先方を自己の手腕に服させることも亦困難を感じないが、何分情的人であるから折々感情に支配されて不和を生ずる場合があるから此の點に深く注意してゐなければ圓滿に交際を持続することは不可能である、まして女子にあつては口が軽くて輕卒な質で忍耐に缺けた者が多いので交際を求めた人は先方を快感ならしめる様に常に注意して煽動的に突進すれば其交際は至極圓滿である、殊にこの種の人をして快感を惹起さしめるには先方が第一の嗜好とする芝居の談話を始め且つ先方の芝居通であるが如くに談話かける

のである、さうすると先方は特意になつて應接し遂に快感の情を催し愉快に交際を交へてくるので完全に其目的を達することとなる。

第十一項 流行好きの人に接した場合

衣食住の慾望は吾人の本能であるが之れとても程度を過ぎると一つの嗜好となる、さうして之等の物も社會が進歩するに伴つて益々變化するのであるから、之に對する慾望も亦進化するのが常である、殊に衣類の如きは時々刻々變化せらるゝのが原則である、故に今日の流行も明日は舊式となるのであるが茲に流行好きと云ふのは其進化に伴つて何所までも流行な物

を欲する者を云ふのである、かゝる人の心理状態を考査して見るに固より同一なりと云ふことは出来ないが大體に於て好奇心が強くて自我の強い至極氣の早い活潑な者が多い、従つて忍耐には乏しいが物事に當つて實行が速い所謂江戸奴式の間人であるから人に依頼れると之を拒むことは出来ないので容易に承諾を興へるが其事を何處までも實行するだけの勇氣と忍耐はないのが一般である、然し人情には比較的厚い方であるから情慾には強い方である、又多情の傾があるのが常である。

斯の如く流行好きの人は好奇心が強くて而かも自我が強くて負けぎらいの

者が多い、故にかゝる人に接し交際を求めんとするには先方の意思に反しない様に注意しさうして先方の愉快とする奇抜な談話をすれば圓滿に交際を爲すことが出来るが、何分氣の速い我が強い人であるから、感情の爲めに交際を失ふ場合は少くない、故に一旦交際したとしても此の點に留意して居なければ其交際を持続することは絶対に出来ない、然るに先方の意思に反しない様にして同情的に突進するときには充分に交際を交へることは出来る人であり亦充分に力めてくれる人である。

第十二項 物好きの人に接した場合

常識的の人は判断心に秀でてゐるから一般に物好きなき者が多い、さうして判断心に長じてゐるだけ物事に感染し易い情的人である、殊に忍耐力に缺けて軽卒で落附がないのが常である、尚口が軽く虚榮心が高い情に支配され易い人である、故に人に誘惑され易い傾きがあるが社交は上手な方である、併し情的人であつて自我が強い忍耐に缺けた者が多いから初めの交際を持續することは最も困難な場合が多い。

かゝる人に交際を求めるときには充分に禮儀作法を注意してゐなければ無常識なことをすると後で他人に吹聴するが如き傾きのある人である、就中女

子には最も多い、尙此の種の人は自惚の強い人であるから煽動的に突進する様にすれば、交際を爲すことは出来るが併し常識に長じてゐる人だけに拙ない事を煽動すると却つて感情を害することゝなる、故にかゝる人と深い交際を交へんとすれば先づ先方を尊敬して感情を損はない様に注意し次に活潑に話談を交へる様にせなければならぬ、斯の如くにして交際を交へたときは親密な交際を持續することが出来るのみならず随分力めてくれる人であるが何分心の變り易い人であるから、其點に注意してゐなければ意外なことが生ずる場合がある、まして女子の如きは其最も甚だしいもの

であるから秘密に屬することなどは可成吹聴しない様にしなければ其秘密を洩される様なことは實に少くない、併しこの種の人は一般に左程惡辣な質の人は少ないが忍耐に乏しいので初對面の交際と同一の交際を何日までも持續することは不可能である。

第十三項 畜獸の好きな人に接した場合

畜獸の中にも色々な種類があつて一概には之を斷定することは出來ない、即ち猛しい剛のものもなれば温和で優しいものもある、故に之等を一般的に論ずることは不可能であるから之を二個に區別して研究することに

じやう、即ち猛しい剛の獸を好く人は性質が剛膽なことを現はすのであつて容易に情に支配される質でない、従つて世事には暗くて一般に無頓着な淡泊な者が多いのである、かゝる人に交際を求めには中々困難な所があるが一旦交際を交へたならば容易に其交際を絶つことはしない人である、併し一般に人情的人でないから同情の爲めに盡したり他人の世話をする人ではない、又剛膽なだけ強情な負けぎらいの點もある、従つて社交的人でないから交際することを餘り愉快としない、故にこの種の人に交際を求めなければならぬとすれば謙遜の態度で常に先方の感情に反しない様

に注意し餘り多くの口をきかない様にしなければならぬ、併し先方が興に乗じてくると克く饒舌る者がある、かゝる場合は活潑に之に應對して談話を進めるときは必ず其目的を達することは疑れない、之に反し溫和な優しい畜獸を好く人は概して感情的の人であつて最も情に支配され易い神經の鋭敏な者である、かゝる人に接した場合には先づ先方の愛する畜獸を愛する様にしなければならぬ、何となればかゝる人は感情の最も鋭敏な人であるから自己の愛する獸を愛されると何となく快感の情を催し、其人をして十分に信用を置く様になるのである、故に先方の親愛する畜類を愛す

ることは有力な交際秘訣であるからこのことは必ず實行せなければならぬ、若しかゝる場合に先方の最も愛する畜獸に對し不法の行動を爲したときは他の交際秘訣を應用すると雖も何等の效を奏するものではない。

第十四項 大聲の人に接した場合

人の内部的活動である心を知るは甚だ困難なことであるは云ふまでもない事實である、然るに人の心は内部的の活動であつて之を現はす發言の法に因つて之を研究するときは其人の性格を大體知得し得べきものである、そうして其方法の一部である音聲の大小に付て研究して見るに大聲の

物は概して快活な質であつて淡泊な人である、さうして物事に輕卒であつて忍耐には乏しいが社交は上手である、尙情的人が多い様である又物事に感染し易いが一方に偏するも其情に支配されない人になる、併しこの種の人は一般に惡辣なことは出來にくい人である、かゝる人に交際を求めるとは最も簡單いが其交際を持續することは最も困難である、故にかゝる人に對しては交際を爲すことを研究するよりも其交際を圓滿に持續し得べき方法の研究せなければならぬのである、即ちこの種の人に對する交際は入り易くして失ひ難いのであるから一旦交際を爲し其交際を永く持續せんと

するには相手方の忍耐力に缺けた輕卒な情に支配され易い缺點を補ふ様に力めなければならぬのである、故に先方をして其交際にあきない様に注意し而かも感情を損はない様にせなければ、其交際を永續することは不可能である、さうして心にもない大きなことを云ふがそれを氣にとがめてはならない、又偽りも云ふ人であるが、夫れ程惡辣な人ではない。

第十五項 小聲の人に接した場合

凡そ人の心は言語や動作に依つて外界に表現されるのである、然るに各大皆性質を異にするので其心を外界に現はす形式に於ても亦同一でない必

すや多少異なつた方法で現れるのである、故にこの點から各人の性質を研究して見ると大體に於て其人の心を知ることが出来るのである、見よ男子と女子とは其言語に於ても動作に於ても著しく異なつてゐる、之即ち男子と女子とは其性質に於て異なつてゐるからである、従つて大聲の人と小聲の人とは其性質に於て同一なりと云ふことは出来ないと共に非常に異なつた點がある、即ち小聲の人は不活發な者が多くて陰險を帯びてゐる、かゝる人は一般に落附があるが物事に執念深くて事に當つて斷行することが容易に出来ない者である、故に社交は上手な方ではなくて而かも人と交り難い

點がある、従つてかゝる人と交際せんとするには大聲の者の様に簡單ではない、即ち人の缺點などが氣になつて容易に交際を交へない、さうして又斷行心に乏しいから交際を爲す場合でも中々交際を爲さない人である、この種の人に對しては急に完全な交際を交へんとしても不可能であるから正々堂々として着々と自動的要件と相俟つて突進する様にせなければならぬ、併し一旦交際を交へたときは之を失ふ様なことは少ないが、何分執念深くて疑ひ深い質であるから往々之が爲めに其交際を失ふ場合等はないではない。

小聲せうせいの人は凡おほそ斯かくの如ごとき性質せいしつの人が多いが中には不活潑ふくわつぱつではあるが其實そのじつ淡泊たんぱくな質たちの者がある、この種しゆの人は忍耐心にんたいしんに強つよくて落附おちつきのある者であるから男子だんしとしては至極しごく適當てきとうな人である、かゝる人に對する場合は公明正大こうめいせいだいに着々ちやくちやくとして突進とつしんするに於ては容易よういに其目的そのもくてきを達たつし得べきものである。

第十六項 聲こゑの鋭すろどい人に接した場合

聲こゑの鋭すろどいと否いなとは程度ていどの問題もんだいであつて而かも聲帶せいたいに關係くわんけいするが甚はなはだしい鋭すろどい聲こゑの人は一般はんに神經家しんけいかであつて自我じがが強つよいことは争あらそはれない事實じじつである、さうしてこの種しゆの人は婦女子ふぢよしに最も多おほいのである、是即これすなはち婦女子ふぢよしにか

ゝる性質せいしつの者が多おほいからである、従したがつて此種このしゆの人で婦女子ふぢよしなるときは極きはめて情じやう的てきの人であつて執念しゅうねん深ふかく而かも迷信めいしんに強つよい人が多いのである、又自我またじがが強つよいので我が儘わがままになり易やすい、さうして其我そのわが儘ままが増長ぞうちやうしてくるとヒステリーの的てきの感傷かんしやうな人になる、故ゆゑにかゝる人は自己本位じこほんみの人が多おほいので自己じこが信しんじたことは理りが非ひでも通とほさなければ已やまんと云いふ頑固がんこな人である、故ゆゑに他人たにんとの折せり合あひは極きはめてつきにくい人である、かゝる人に交際かうさいを求めんとするには相手方あひてをして快感くわいかんならしめる様に力つとめ決して先方せんほうに反抗はんかうしてはならない、若もし先方せんほうをして感情かんじやうを損そこはしめる様なことがあつては決して其交際そのかうさい

は完全な交際ではない、必ず感情の爲めに衝突して其交際を失ふこととなるのが普通である、然るに彼をして快感の情を惹起さしめたりとすれば彼は自己を忘れて交際を交へる人である、斯の如くにして交際を交へたとすれば彼は其人を信じ其人の爲めに盡すのが常である、故にかゝる人をして親しき交際を交へさせんとすれば先づ其人の信する所に従ひ時には煽動的の行爲に出でて其人の快感を奮起せしめる様に力めなければならぬ。

第十七項 詞の優しい人に接した場合

吾人が言語を發する場合に其詞が優しいものと亂暴なものとがある、其

優しい詞の人は概して性質も圓満な温和の人であるが中には猫かぶりと云ふて之に反對の人がある、かゝる人は俗に云ふズウ／＼しいヅブトイ質の人である、従つて情には容易に支配されないのみならず物事に對しても激しないが一旦激するに於ては何處までも其事を貫徹せなければ已まんと云ふ執念深い人である、かゝる人に對して交際を求めるときは中々骨が折れる、即ち事に當つて容易に斷行しない人であるから交際を爲す場合に於ても誠意を明かすまでは容易のことでない、何事も自己本位で不得要領で人をして快感ならしめると云ふ様なことはない、故にこの種の人と親密な交際を

交へんとすれば須らく忍耐がなければ其目的を達することは不可能であるさうしてこの種の人は女子に最も多いのは注意すべきことである、之に反し優しい詞の人で活潑な人は温和で落附があつて而かも忍耐心に強い人が多い、さうして此種の人は一般に人情に厚くて誠實な人であるから他人との折合も好し又忍耐心にも強い人であるから人々に尊敬を受ける人であるかゝる人に對する場合は別に困難な問題は生じないが稍もすると小膽な人があるから誠實に而かも品性を重じ禮節を守つて交際を交へないと圓滿に其交際を永續することが出来ない場合がある。

第十八項 歩き方の亂暴な人に接した場合

吾人の心は言語や動作に因つて外界に表現されることは以上説明した所であるが其動作の中にも特に歩き方に付ては其性質を異にする主なるものである、さうして其歩き方に付て癖のある歩き方をする者がある、例へば花柳界の女の様に普通人と異なつた奇抜な歩き方をする者がある、彼等は其奇抜な歩き方を以て粹だとかオツな歩き方だとか云つて客の心を引かんとしてゐるのである、故に之としても彼等の性質の一端を現はしてゐるのである、併し之等は素質が然らしめるのではなく多く習慣が斯の如くなさ

しめたのであるが歩き方の亂暴な人は確かに素質が亂暴で輕卒な人である、さうして素質が亂暴なだけ落附がなくて忍耐に乏しい人が多い、併しこの種の人は活潑であるから社交などは上手である、故にかゝる人に交際を求めるとは餘り困難を感じないが之を永續することは困難である、何となればかゝる人は概して熱し易い冷め易い人であつて忍耐心に缺けた人であるから初めの交際を何處までも同じ様に持續して行くことが出来ない人であるから従つて其交際を永續することは不可能である。

要するにかゝる人は亂暴な質に比して夫れだけ大膽な人でない、只だ快

活で輕卒なので大膽な様に一見した處は見へるのである。

第十九項 落附のある態度の人に接した場合

態度の異なるに因つて人の性質が異なることは兒童の態度と大人の態度とが異なつてゐるによつて見るも亦婦女子と男子とが其態度に於て非常な差異があるによつて見るも明かな事實である、即ち大人と小兒とが其態度を異にするは其性質が異なつてゐるからである、男子と婦女子とにあつても亦然りである、さうして女子の如きは少女のときと然らざるときとは生理上及び心理上に非常な差異を生ずるものである、言葉を換へて云へば小

女が男子に接すると其態度が一變するのである、即ち小女が男子に接すると嗜好の慾望が一變し、度胸が加はつて落附ある態度を示す様になるのである、是即ち心理上に差異を生ずる結果に外ならないのである。

就中落附のある態度の人は性質が剛膽で忍耐に強い人である、さうして容易に情に支配される人でないが一旦情に動かされる時は何處までも盡す人である、かゝる人に接して交際を求めんとするには空想を避け誠實に且公明正大に進まなければ其人をして信用せしめることは出来ない、然し一旦信用せしめた以上は飽まで盡してくれる人である、併し中にはこの種の

人で陰險を帯びてゐる人がある、かゝる人は餘り性質が善良な人でないから大に注意してゐなければならぬ、殊にこの種の人で小聲の者は執念深くて他人との折合のつきにくい人である。

交際秘訣の内容

一般的交際術

一 總説

交際秘訣の要件として自動的と他動的の二方面に區別して前編既に之を説明したのである、さうして其自動的の要件と他動的の要件とが相平行するに於て交際の秘訣を發揮し完全な交際を交へることが出来ることを説いたのである、然るに人必ずしも同一階級の下にあるものではない、或は自己よ

り目上の者に向つて交際を求むる場合ある、或は自己より目下の者に對して交際を爲す場合がある、故に同一の交際術を以て之に應ずることは到底不可能のことである。

又或は嚴格な人あり、或は神経家の人あり、或は女子なる場合あり、或は成年者に對する場合あり、或は年少者に對して交際を求むる場合がある、故にかゝる場合に何れも同一の方法を以て交際を交へんとするが如きは固より不適當である、茲に於てか吾人が本節に於て各場合に於ける交際術を説明するのである、例へば被交際者が嚴格な人である場合には自動的の要件

を充分に注意して交際を交へることを要し、自己より目下の人に對する交際は他動的要件を充分に研究して被交際者を手玉にとる様にすれば交際秘訣の眞理に合致するのである又少年者に對する場合は好奇心を惹起す様なことを以て感情を奮起させ自己の權力範圍に服せしめるが如き方法に出でたなれば、必ず交際の目的を充分に達し得らるゝのである。

斯の如く交際は各人各個に應じて適當の方法に出でなければ完全な交際を交へることが出来ないのである故に是より項を別つて各個の場合に適用し得らるゝ場合を説明して見やう。

二 上級の人に交際を求むる場合

自分より目上の人に向つて交際を求めんとするには先づ交際秘訣の要件である自動的要件の全部を知得してゐなければ其交際の目的を充分に貫徹することは不可能である、故に訪問を爲す場合にあつても清潔を守り品性を重じ禮儀を正しくせなければならぬのは勿論、常に活潑な態度を示し而も言語は明瞭でなければならぬ。

不活潑にして言語が不明瞭であるときは相手方をして不快の感を惹起さしめ、遂に其人をして疑惑を懐かしめる様なことになる故に相手方をして

愉快に交際を爲さしめんと欲するに言語が明瞭であつて活潑に應對する様にし而かも禮儀を失はない様に注意することを要するのである。

斯の如く自動的要件を具備することが出来たとすれば、先方の特徴に注意しさうして應接上現はれる點に付て先方の性格を觀破することに力めるのである、若し先方を觀破し得られたとすれば、其の人の嗜好とする點に向つて面白く論談し感情を奮起せしめて快感の情を惹起せしめるのである、果して快感の情を惹起したとすれば其交際は確かに成功したのであるから、相手方をして自己を親愛せしめることが出来るのは勿論、交際を求

めた者の要求を成就することは疑れないが、此の交際を永續しやうとすれば常に誠實と云ふことを缺いてはならない、さうして今日のように物質文明になつては時々オマジナイの必要もある、其オマジナイは、先方の地位に因つて仕處が違ふのである、極上級の人であれば直接に之をするのは不當である、例へば相手方の親愛してゐる使用人に之を爲すとか令室若くは令息に之を爲すのが適當である。

要するに交際は精神上及び物質上の何れかに付て利益交換てふことがなければ其交際は永久に續くものでないことは交際者に採つて常に考へてゐ

なければならぬ主要な事項である。

三 下級の者に交際を求める場合

交際は最大善意のものであるから自分より目下の人に對する場合でも、苟しくも交際を求める以上は輕侮的態度に出でたり、自分が目上のもなりと云ふ觀念であるときは、其交際は完全な交際でなくて必ず一時的のものである、故に下級の者に對する交際も矢張自動的要件を具備してゐなければ圓滿な交際を交へることは出来ない。

併し下級の者に對する交際術と上級の者に對する交際術とは大に異なつ

た點がある、即ち上級の者に對する場合は清潔を守り、品性を重じ禮義を正しくして交際を交へることが肝要であるが、下級の者に對する場合は自動的要件よりも寧ろ他動的要件を最も必要とするのである何となれば之等の人に接したとき自動的要件を充分に發揮するに於ては謙遜過ぎて、却つて阿諛となり、遂に相手方より軽く視らるゝこととなるからである。

然るにかゝる人に對した場合に他動的要件を充分に發揮することが出来るとすれば其人をして自己に服せしめることが出来る、且愉快に交際を交へるのみならず相互に利益を交換することが出来るのである、例へば芝居好

きの人に對する場合は其甚む處の芝居の話を爲し相手方をして快感を催さしめ、而かも煽動的に突進すれば必ず其目的を達することが出来るのである、何となれば此の種の人は情に支配され易い、所謂熱し易い冷め易い人であるから其情に支配され易き點を利用して行けば圓滿に交際を交へ互に利益の交際を爲し得べきものである。

四 嚴格な人に交際を求めるとき

總てに嚴格な人に對して交際を交へんとするには須らく自動的要件の全部を具備してゐなければならぬ、故に先づ身體を清潔にして品性を重ん

じ、禮義を正しくし、活潑に而かも誠實な態度を以て應對しなければならぬ、然らざれば先方より嫌忌されて侮辱を受ける様な場合は尠くない、殊に此の種の人に對する場合は品性を重んじ、禮義を正しくするのが主要の點である、若し之等の點を缺いて交際を爲したとするも決して其交際は完全なものではないから相互に利益の交換を爲すが如きは絶対に出来ない、さうして嚴格な人は概して正義の人であつて其面目である、又品性も高尚で禮義が正しいのが普通であるから性質も善良な方で淡泊な者が多い、殊に女子にあつては極めて適當な性格の人であるが餘り嚴格過ぎると却つて他

人から批難ひなんされてることがある併しかしか、る婦女子ふぢよしは常識じやうしきに通つうじ易やすくて總すべてのことに行届ゆきとく人ひとであるから社交しやかうは上手じやうずである、又他人またたにんから慕したはれる人ひとだけに交際かうさいを交まじへるにも自動的じどうてき要件えうけんを具備ぐびしてゐれば其目的そのもくてきを達たつすることが出来るが他動的たどうてき要件えうけんを應用おうようする範圍はんみが狭せまい、何なんとなれば此この種しゆの人ひとは總すべてのことに嚴格げんかくで正義せいぎの人ひとであるから不正ふせいな煽動せんどう的てきの方法はうほうを以もつてしても感情かんじやうに支配しはいされる人ひとがない、故ゆゑに誠實せいじつな方法はうほうに因よつて交際かうさいを交まじへる様やうにせなければ到底たうてい圓滿まんまんな交際かうさいを爲なすことは望のぞみ得えられない。

五

神經過敏しんけいかにびんの人ひとに交際かうさいを求もとめる場合ばあひ

神經過敏しんけいかにびんの人ひとに交際かうさいを交まじへるのは餘程よほど困難こんなんな點てんがある、故ゆゑに自動的じどうてきの要件えうけんは勿論もちろん他動的たどうてきの要件えうけんを研究けんきうして先方せんほうの感情かんじやうを害がいしない様やうにしなければ完全くわんぜんな交際かうさいを爲なす事は不可ふか能のうである、何なんとなればこの種しゆの人ひとは自我じがが強つよくし負まけざらいで而しかも感傷かんじやう的てきの人ひとが多いから、動やもすると感情かんじやうに走はしつて衝突しやうとつする場合ばあひが尠すくなくないのである、さうして頭あたまは比較ひかく的に鋭敏えいびんに動うごくので細さい事に付つても中々なか氣きが附つき易やすい、従したがつて他人たにんの缺點けつてんなどを見出みいだすことも巧妙きやうめうである、其その缺點けつてんが彼かれをして非常ひじやうに感情かんじやうを損そはしめる原因げんいんとなるのであるから注意ちういしてゐなければならぬ、又神經家またしんけいかの常つねとして自己じこの意思いしに適てきし

ないときは決して其實の交際は交へないのみならず、嫌忌を爲し、遂に其の人を敵視する様なことも尠なくない、又婦女子にあつては、俗にヒステリーと稱する病的の人がある、かゝる人は神経の最も過敏な者であるから交際を求めんとするに當つて深く注意を要することがある即ち先方をして快感の情を催させることである、若し不快を催させたときは絶対に交際を交へる事は不可能である、然るに相手方の嗜好とする處に向つて突進すれば相手方は遂に歡喜慰樂を得て親しい交際を交へてくる、又情的の人間であるから稍々煽動的に出ても差支はない、間斷なく注意すべきことは先方

の感情を損はない様にするのである、即ち彼をして歡喜慰樂を得しめるには感情を奮起せしめる様に力めるのである、さうすると必ず其の目的は達することが出来るのである、例へば芝居好きの者に對しては先づ芝居のことを持出し、子女がある者とするれば其子女を愛する様にせなければならぬ。

要するにかゝる人は最も情に支配され易い人であるから其弱點を捕へて突進する様にすれば如何なる難事でも必ず目的を達することが出来るのは疑れない事實である。

六 婦女子に交際を求め場合

女子と小人は養ひ難しと云ふ格言は昔から、唯も云ふ詞である、故に婦女子は一般に馭し難い點があるのであらうが吾人の考へる處に因ると婦女子程馭し易い者はないと思はれる、如何となれば婦女子は概して情的の者が多くて常に情に支配される人間であるから此の弱點を捕へて馭すに於ては極めて馭し易いものである、最も婦女子は情的の人間であるだけに忍耐心に乏しくて熱し易く冷め易い者が多い、又自我が強くて我が儘になり易い質であるから餘り放任してをくと我が儘が増長して遂には手の付け處の

ないおてんば人間になることは疑れない事實である、さうして又餘りに虐待すると變則的の性質になつて往々ヒステリーの様な病的の人間になつて終う故に婦女子を馭するには中庸をとらなければならぬ、即ち一方に於ては最も嚴格にし他の一方に於て温かい愛の泉を持つてゐなければ到底婦女子を馭することは出来ない。

斯の如く婦女子を馭するには一見困難な様であるが深く研究するときには最も容易いものである、即ち其性質を知つて之等に適應すべき方法を誤らなければ容易に之を馭することが出来るのである、況んや交際に至つては

最も簡単に之を交へることが出来るのである、啻茲に注意すべき事は婦女子が男子に比し小膽であつて細事に付て注意深き爲め交際者が缺點多きとは種々な批難を受けることは免れない事實であるから此の點に深く留意して置かなければならないのと、他の一つは婦女子が感情的の人間であつて我が強いから相當の禮節を守つて品格を高尙に持つてゐなければ輕視されることとなるのである、是等も豫め注意してゐなければならぬ、又婦女子は一般に虚榮心が高いから眼下の者に對しても決して輕視してはならないのみならず常に煽動的に突進するのが宜しい。

要するに婦女子に對する交際術は極めて簡單である、即ち情に支配され易い弱點を捕へて歡喜慰樂の情を起さしめる様に心掛けてゐれば必ず其目的を達することが出来るのである、例へば談話好きの人に對して先方の得意な談話を持ちかけ、芝居好きの人に對しては芝居の談話を初め常に先方の感情を奮起せしめる様に力めるときは我を忘れて興に乗るのが普通である。

七 少年者に交際を求めるとき

人此の世に生れ慈愛深き父母の養育の爲め次第に成長し七八歳に至つて

學校に入り國民として必要な學理を究め十四五歳より身體上及び精神上種々な變化を経て漸くにして成年に至るのである、故に此間に於ける精神上の變化即ち性質の變動は實に著しいものである、殊に少年時代より成年時代に至る間の變化は其最も甚だしいものである、或學者は人生の一代を四期に別つて各人の氣質を區別してゐる、即ち少年時代は多血性であつて成年時代に至ると膽汁性となる、更に中年時代になると氣鬱性となり、尙老年時代に至るときは粘液性となるものであると説明してゐるが此のことは大體に於て或は然らんも吾人は全然此の説に賛成することは出来ない、併

し人の精神作用は其身體の發育と共に著しく發達することは争れない事實である、言葉を変へて云へば身體の發育に伴ひ外界の刺激や教育の力や種々な境遇に因つて知識はそなはり判斷心は増してくるので、其の性格に於ても種々な變化を來すものである、然れども幼年時代にあつては、身體の發育の著しいに比して、性格には夫れ程變動がない、只知識が増し是非善惡の觀念が生ずるのと嗜好の慾望が増すのみである、故にかゝる時代にあつては一般に物事に感染し易くて好奇心が強いので境遇に因つては素質を變更せしめる場合は尠なくない、故にこの種の者に交際を求めにはこ

の弱點を捕へて突進せなければならぬ。

尙十二三歳より十六七歳に至る間にあつては身體上及び精神上著しい變化を來す時代であることは、以上説明した處である。殊に言語には音聲の變化あり、味覺には嗜好の變化あり、其他身體の構造殆ど一變する時であるから、従つて性質にも大變化を來たす時である、即ち此の時代は氣質が強膽であつて物事に感染し易く而かも冷め易くて活潑であるが兎角亂暴で忍耐に乏しいのが普通である、就中女子にあつては月經の生ずる時代であるから身體上大變化を來たすは勿論精神上にも多大の變化を生ずるもの

である、殊に少女が男子に接すると身體上は勿論精神上に甚だしい變化を惹起し精神作用が一變するのが普通である、故にかゝる者に對して交際を交へんとするには常に其變化することに注意してゐなければならぬ、さうして其變化に伴つて適當な方法を應用すれば必ず圓滿に彼をして服従せしめることが出来る、何分情に支配され易い時代であるから、交際を爲すには極めて簡單であるが之を永く持續するには以上説べた通り其變化する所に注意してゐなければならぬのである。

八 外國人に交際を求めめる場合

古代にあつては外國人を以て敵視してゐたので交際をするが如きは得て望むことが出来なかつたが社會が稍々進歩して來たので外國人と雖も必ずしも敵視すべきものでないことを覺るに至つたが未だ内國人に比して劣等の者の様に思はれてゐた、此の時代を稱して排外時代と云ふのである、然るに社會は漸くにして進化し廣く交際を爲し相互に利益の交換の途を開くは常に利益あるのみならず、内外人を區別すべき理由なきことを覺るに至つて始めて内外人平等と云ふ様になつて來たのである、故に今日では何れの國を問はず、内國人と外國人とは平等の地位を有し交際を爲し互に利益

を交換しつゝあるのである、殊に近代では外國人と交際するを以て名譽の如く思惟する様になつたので各人競ふて外國人と交際を爲さんとしてゐる、文明を開發する上に於てかくありたきものである、茲に於てか外國人に對する交際術を研究する必要がある、然るに一概に外國人と云ふときは頗る廣義のものである、併しながら我國籍を有しない者は如何に國を異にするると雖も等しく外國人であつて其待遇する處は同一である、又外國人にして本國を離れ我國に居住してゐる以上は何れの國の人と雖も皆同じ感想であらうと思はれる、故に吾人は何れの國の人たるを問はず同一の感想

にある外國人に對して交際をするには同一の交際術を以て之れに當れば其目的を達することが出來得るものと思考するのである。

外國人より之を觀るときは本國を去つて遠き外國に來つて住居するものであるから、如何に強膽な人と雖も淋しさと不安の念とは幾分か存するのが普通であらう、尠なくとも排外行爲に出でなければいゝがと云ふ懸念は確かにある、即ち人情として生れた國にあるよりは、幾分か心の落附がないのが常である、故に本國民たるものが、之等の人に誠意を以て交際をしたならば必ず外國人が深く信ずる様になるのは、云ふまでもないことであ

る、如何に内 外人平等の文明の今日と雖も、或は外國人と見たら暴利を貪らんとする人もなきにしもあらざる今日なれば、外國人にあつては之れ等の損害を排斥する様に、心懸けてゐることは疑ひない所である、然るに誠心誠意の日本人を得るときは、かゝる損害を未發に防ぐことか出來るのみならず、誠意ある友人を得るときは愉快に生活を持続し得べきに因り、かゝる友人を得たきは外國人の常に幾ふ所である、果して然りとすれば此の弱點を捕へ誠意を以て交際を求めるのである、然るときは外國人も心を許し愉快に交際を交へる様になることは確かである、若し不誠實な心を以

て彼に對したなれば必ず彼は其交際を避くべく力めるのは賭易きの道理である。

九 交際と贈答品

吾人が他と親しい交際を交へるときは一定の習慣に因つて互に贈答品を取替す場合がある、是即ち交際を尙親密ならしめる目的の下になされるのである、かゝる場合に當つて注意すべきことは其土地の習慣である、若し其習慣を知らずして徒らに之を爲すときは却つて相手方の感情を害し自己の地位を失ふが如き場合は尠なくない、嘗て著者はお茶の切手を贈つて大

なる失敗を爲したことがある、假令へ知らざるが爲めに出でた場合でも先方は夫れを是としてくれない、よし夫れを認めてくれるとしても、自己の品位を失墜することとなるから、大に注意してゐなければならぬ、況んや人類最高の善である、交際を親密ならしめる爲めに爲す贈答品は、注意の上には注意をして贈らなければ、其目的を達することが出来ない、併し之のことは一般的のことであるから中には随分吝嗇家があつて貰ふことなら何んでも取り入れると云ふ人もないではないが、かゝる人は極めて例外である、さうして贈答品は、各人の身分に應じた物を贈るやうにしなくて

はならない、又先方の性格をも考慮してゐなければ折角に爲した贈り物も何等の効果を奏しないことになる、尙又利益交換てふことは吾人の生命であるから、互に利益を享有することが均等でなければならぬ、故に如何に身分が異なつてゐても其贈り物は均等でなければならぬ、勿論其利益は精神上的の利益でも物質上の利益でも差支はないのであるから一人が精神上的の利益を與へ他の一人が物質上の利益を與へたとすれば其交際は永久に持續せらるべきものである、泥んや今日の様に物質文明になつて各人が功利主義に傾いた時代にあつては此のことが肝要である。

各個に於ける交際術

一 總説

社會が進歩して精神上及び物質上著しい發達を爲した現代にあつては、總ての仕事が複雑になり、其結果吾人の掌る仕事もすべて分業となつたのである、さうして其分業の半面が職業である、故に吾人は分業の半面である何れかの職業を有し、其職を専業として生計の途を立てゝゐるのである、例へば一つの仕事を爲すにも甲の職人が加工の一部を爲し、乙の職人が其一部を爲し丙の職人が之を仕上げ丁の卸商人に賣却し、丁の商人が戊の

小賣商人に卸し、或の小賣商人が初めて社會の需要に應ぜしめるのである、併しながら是より説明せんとする職業は以上の如き細密な職業を云ふのではない、其職業に因つて各人の素質を變更せしめるだけのもの即ち職業が其従事する人をして第二の天性を植ゑつけるだけの力のあるものであつて而かも其に因り地位を異にする場合に付て、各個に應ずる交際術を聊か研究して見ることにしやう。

要するに交際は最高の善なりと雖も上下の區別なきものではない、必ずや其間に於て差等を認めなければ時には謙遜に過ぎて却つて自己の地位を

失ふ場合あり、又時には禮義を失つて先方の感情を損はしめる場合もある、故に適當な交際を爲すには被交際者の地位如何に因つて交際の秘訣を應用せなければ到底完全な交際を交へることは不可能である、況んや職業に因つて生ずる習慣や、周圍の事情が其人の素質を變動せしめてゐるとすれば、總て同一の交際術を以て之に應ずることは出来ない、茲に於てか吾人は被交際者の職業の異なるに従つて各個に相應すべき交際術を説明して見やう。

二 法律家に交際を求むる場合

吾人の慾望は千差萬別であるが大體に於て先づ食を求め次に衣を欲し、さうして住家を要求するのが普通である、然るに之等の慾望は單に本能の命する所の慾望であつて他の下等動物も等しく有してゐる、故に人類は他に理性の命する慾望を有してゐる、即ち吾人は團體的生活を爲し國家の分子たる國民となつて種々な行動を爲し他人と交際するが最大の慾望であることは前にも述べた處である、従つて吾人は社會に貢獻せんとして目的を定め其目的に向つて行動し努力してゐるのである、俗に理想と云ふのは此の目的の半面を云ふのである、さうして吾人は吾人の特徴とする所に向つ

て目的を定め其目的を達せんとして常に奮闘しつゝある、故に法律を志望する者にあつては法律を學び、文學を志望する者にあつては文學を修め、各々其好む處に因つて專業を定めるのである、茲に法律と云ふのは社會の秩序善良の風俗を保持する爲めに設けられた國家の掟を云ふのである、言葉を換へて云へば吾人が社會共同生活を爲すに必要な行爲の規則を定めたものが、法律である、故に一般國民は男女の區別なく老幼の差別なく其觀念が必要である、就中人の上立つて事を爲す者若くは官吏の如きは其必要の最も甚だしいものである、従つて法律を研究する人は概して理想家で

虛榮心の高い人である、尙法律は吾人の行爲を定むる規則であるから兎角理論的のものである、故に理論に走つて理窟を比べるのが普通である又自我が一般に強い方であるが社交は理窟を知得してゐるだけに上手である。かゝる人に交際を求めんとするには、活潑な態度で明瞭な言語を以て應接する様にしなければならぬ、又理窟を云ふことが習慣性になつてゐるので理窟を云ふのが好きであるから特意の理窟を比べさせるのである、さうして相方の感情を奮起させて置いて自己の要求を持出す様にすれば必ず其要求は入れてくれる、尙自我が強い者が多いから反對に出ない様に心懸け

てゐなければ其交際は破壊されるのが常である。

三 文學家に交際を求めるとき

文學を修めんとするは恰も白雪が一面に降り積つて銀世界になつてゐる原野を往行する様なもので、行く目的地は確定してゐるが行くには道なく、ウカ／＼行けば往々にして難所にかゝり、非常な苦心をせなければならぬのみならず、偶々危険千萬な道路に差かゝり進むに進まぬ、退くに退かれずして身體谷まる場合は尠くない、斯の如く道の難所や危険を冒して進まなければならぬので此の學問を修めんとする人は極めて大膽で且

小心でなければならぬ、然るに多くの文學者は此の二者を具備してゐる者がなき様だ、さうして此の學問をする人は兎角神經が鋭敏になつてゐる、即ち鋭敏でなければ充分な文章は書けないからである、又文學は法律學の様にはでな學問でなくて保守的の學問であるから従つて之の學問を修めた人は一般に保守的な神經家の人が多い、尙此の種の人は概して物質上の慾望よりは精神上の慾望に傾いてゐるので自然金錢には縁が遠い様である、故にかゝる人に交際を求めんとするには先づ自動的要件の全部を具備した上でなければ交際を爲しても永久に之を持続することは出来ないのが常で

ある、云ひ換ふれば此の種の人に交際を交へんとするには他動的要件よりは寧ろ自動的要件の方が肝要である。

四 醫師に交際を求めるとき

吾人の病氣てふ災害を防ぐ方法には二つの方面がある、其一は病氣てふ災害を未發に防ぐ方法であつて例へば衛生を重んじて病氣の襲來を防ぐのである、其の二は病氣が襲來した時に醫藥の力で其病氣を回復せしめる方法である、さうして前者は各自が注意するに因つて其の目的を達することが出来るのであるが、後者は専門家である醫師の力に俟たなければならぬ

いのである、斯の如く醫師は吾人の力に因つて回復することの出来ない場合即ち醫師の力でなければ吾人の生命を全ふすることが出来ない場合に當つて效を奏する人であるから誠に醫師は吾人の生命を保持する上に於て必要なるものである、言葉を換へて云へば醫師は人の生命を與つて之が保持を全ふする重大な責任のある人である、然るに近時にあつては多くの醫師は物質主義に支配されて營利の爲めに背任行爲でも爲すと云ふのは甚だ迷惑な次第である、醫師は一面に於て學者であり、他面に於ては實踐家でなければならぬのである、即ち一方には學理の發見に努力し他方では之を適

當な各所に適用せなければならぬ職責を有する人である、此の點に於ても醫師が私利の爲めに左右せらるゝと云ふことは、遺憾とする處である、さうして醫師は近代社會に於て中流以上の地位を占めてゐるが、何分種々雑多の人と交際を交へてゐるから社交は概して上手な方である、故にかゝる人に交際を交へるのは極めて困難を感じないのが常であるが矢張他動的要件だけは應用しなければ其交際を永く持續することは不可能である、さうして現代社會の醫師は兎角物質主義に支配されてゐるので利益交際してふことがないと申す中々其交際を永續させることが困難な様である。

五 教育家に交際を求めるところ

職業に因つて生ずる習慣や、周囲の事情が其素質を變更せしめると云ふことは或は相對的の詞であるか知れないが、確かに或程度までは素質に影響を及ぼすことは争はれない事實である、先年著者は種々雑多の人が集する場所に於て其人々の職業を一々觀破して見たるに十中八九までは其人々の職業を觀破し得られた事實がある、之れ全く職業が第二の天性を植るつけた確證である、就中教育者の如き眞面目な職業にあつては尙更素質を變動せしめることが甚だしい。

惟ふに教育の目的は國民をして德育及び知育を授け、其幸福を増進せしめんとするのである、さうして德育は正不正の觀念を明かにし徳義を理解せしめるのであつて、智育は總ての事物に關する理由を會得させ完全な生活資料を得るに適當な能力を享有せしむるのである、故に其局にあたる教育者にあつては德育の發達と其實踐とは缺くことの出来ないものである、故に教育者は常に人格を重じ、品性を慎まなければならぬ、殊に兒童の如き物事に感染し易い者を教育するに於ては特にこの點が肝要な事項である、斯の如く教育者は品行を重じなければならぬので、常に其の觀念が

頭を去らないので夫れが習慣性となつて營利的觀念殊に惡辣な手段を以て暴利を貪らんとする様なことは毛頭ないのが普通である、さうして理想は物質的慾望よりは精神上の慾望即ち名譽てふ方面に進んでゐる、然るに現代の物質文明の半面には生存競争が激甚となつて生活難を感ずる様になつて來ては、かゝる慾望は自然に遠ざかりつゝあるは誠こ已むを得ない事實であるから、先づ之れ等の人に對して生活上の安定を得しむることは刻下の問題である、夫れはさてをきかゝる人に交際を求めんとするには自動的要件の全部を遵守せなければならぬのは勿論であるが、特に品性を重

じ、禮義を正しくして交際を交へる様にせなければならぬ、さうしてこの種の人は概して正義の人であるから誠實な方法に因つて突進せなければならぬ。

特に女教員にあつては教員てふ資格の下に兒童を教育し我が意の儘に兒童に服従を命じてゐるので其ことが習慣性になつて他人から反對に命令される之に服従することが出來ないのみならず、夫れが爲め感情を害する場合は尠くない様である、故にかゝる女に接した場合には可成先方の感情に逆らはない様に注意し虛榮心の高い弱點を捕へ煽動的に突進する様にす

れば必ず其交際は成功する。

六 會社員に交際を求めるとき

現代社會に會社員を志望する者が多いのは、物質文明の半面を現はしたのである、即ち物質文明の結果總てが複雑となり、之を経営するに會社組織を以てするに非ざれば、到底完全な目的を達することが出来なくなつたので、色々な會社が創立されるのである、さうして會社員を志望する者の理想は、將來實業家にならうと云ふ野心があるからである、然るに事實は之に反して一生涯を腰辨で送るのが普通である、故に會社員も矢張腰辨根

性に支配されて自己の月給の昂上するのが最大の快樂の様になつてくる、さうして之を永く持續するときは獨立して事業を爲し、商業を営まうとする勇氣が缺けて、遂に腰辨で一生を送る人も尠なくない、併しながら物質的の慾望は之に因つて消滅すべきものでないから腰辨を爲しつゝある中から獨立して事業を爲し、商業を営み、會社を創立して大に成功を爲す人がある、之れ則ち會社員を永く持續した者は常に營利的觀念に支配され其結果商取引に關する懸引も上手になり社會の狀態に通じ交際術に秀で、くるので自然成功し易いのである。

かゝる人に交際を交へんとするのは、左程困難を感じないが何分營利的觀念に秀で勘定高いのが普通であるから利益交換てふことがないとその交際を持続することが困難である、然し一般に會社員は官吏よりはでな方であつて掛け引が巧妙である、故に交際を求めざる者に於ても此の點に注意してゐなければならぬ。

七

軍人に交際を求める場合

軍人界に於て物質主義が流布するときは規律を紊し、兵を弱くするの原因であることは多く云ふまでもないことである、故に軍人は徹頭徹尾精神

上の快樂を以て満足せなければならぬ、殊に規律は軍人の生命とも云ふべきものであるから、何れの國に於ても此のことは堅く守られてゐる、就中我國にあつては其點が特徴であつて最も其美を濟してゐる、斯の如く軍人は常に規律的生活を爲し、精神上の快樂を以て満足し、而かも何時も活潑な生活を持続してゐるので各人の性質も習慣性に習されて活潑な規律的人となつてゐる、然るに今や物質主義の平面に横はる快樂主義が、社會の全般を支配する様になつて來たので、名譽ある軍人と雖も漸次其氣風に遠かりつゝあるは國家の爲め誠に慨嘆に堪へない次第である要するに軍人

は規律が正しくて比較的世事に暗く、而かも淡泊な質で活潑なのが普通である、故にかゝる人に交際を求めるときには須らく活潑な態度で明瞭な言語を以て應對する様にし、さうして要件は可成簡単に結果を告げる様に注意してゐなければならぬ、又規律的人であるから禮儀も正しくなければならぬ、他動的要件としては別に注意すべきことではないが、其人の嗜好が判明してゐれば其嗜好に付て快活に談話かける様にすれば如何に固い冷たい人でも容易に溶けて感情を奮起せしめてくる、果して感情を奮起したときは圓滿に交際を交へられることは疑ひなき事實である。

八 官吏に交際を求めるとき

官吏は國家の事務を執行する人であつて特別の權利義務に服するのである、故に官吏が其職にあるときは一般臣民と異なつて特別の權利を有し、義務を負担してゐるのである、思ふに古代にあつては官吏と云へば他の臣民に比して特別の地位を占め而かも階級を異にしてゐたが、現代では官吏と雖も他の臣民と等しく同一の階級に服してゐるのである、只官吏の職にあるときは官吏てふ身分に附隨して生ずる權利を有するのみ、他は一般臣民と同一である、然るに従前は官吏と云へば特別の階級を占め、異大な權

利を有して、一般臣民に對して命令を發し、非常に臣民を虐待し、臣民亦官吏を尊敬したものである、故に其の習慣が今日に至つても遺物として存し、往々官吏風を吹かせる人がある、併し今日の様に物質文明になつてはかゝる弊風は日を追ふて遠ざかることは多く云ふまでもない事實である。

要するに官吏は國家の統治機關として國家事務を分擔する人であるから、其半面には名譽が伏在してゐる、故に官吏を志望する者は物質上の慾望よりも精神上に生きんとする人が多い、尠なくとも階級的制度を要求す

ることは確かである、況んや永く官吏の職に在る人は其階級に支配されてゐる様である、故に交際を交へんとするにも階級てふことに注意してゐなければ其の交際は失敗に終る場合がある、さうして會社員と異なつて物質的の慾望が低いので掛引きをする様なことは尠ない、又保守的な勤勉な人が多い様である、殊に永く官吏の職にある人に接したときは可成空想な事業の談話は慎しむ様にしなければ相手方の信用を失ふことゝなる、兎角誠實な方法に因つて交際を交へる様にせなければ眞の交際は出來ない人が多い。

九 職人に交際を求めめる場合

我國では物質文明の今日でも職人職工の地位を認めないのみならず、動もすると之等を卑下するの傾きがあるのは我工業界の進歩發展上誠に憂慮すべきことである、何となれば一つの鐵片を一圓の價にするのも百圓の價にするのも一に職人職工の力に據らなければならぬのである、即ち其鐵片を火箸にするときは僅か一圓の價しかなくも之に加工して鉄とするに於ては十圓の價となり、更に緻密な加工を爲し之を時計の機械となすときは百圓の價となるのである、斯の如く其の生産力は一に職人職工の

技術如何に因つて數十倍數百倍の價となるのであるから職人職工を卑下する理由は更にないのみならず、益々其地位を認めて昂上發展の途を開発せなければならぬのである、然るに我國では古來の武家政治の反映に因つて職人職工の地位を今に認めないのみならず、却つて之等を卑下する悪習慣が存してゐるのである、さうして職人職工其人自身が自己の地位を認めない様である、往々世上で見ると自分は職工であるから無作法でも亂暴でも乃至は無常識でも尠しも社會に恥づる處はないなど云ふて猥りに無作法なことをしたり又亂暴な行爲を行つたりして盛んに無常識を極め

て自己の地位を益々下落せしめてゐる、之等は甚だ誤つた考へである、見よ空行く雲、川を流るゝ水は進めくくと云ではないか今日では假令職工でも軍人でも官吏でも皆同一の権利義務に服従する國民である、職人であるから職工だから軍人や官吏と階級が異なつてゐるのではない國民皆同一である、故に自分で自分を卑下したり自分の立派な職業を劣等のものゝ様に考へるのは大に過つてゐる、寧ろ自己の地位を認め自己の従事する職業の高尙なことを説いて社會をして其地位を確認せしめるのが本分である。

要するに我國では古來武家政治の時代に職人職工を卑下した惡習慣が

今日の物質文明に於ても遺物として存してゐるので軍人や官吏が職人や職工に比して高尙なものゝ様に思れてゐるのであるが今日の様に社會が一變して物質文明の時代になつては之等を一變せしめることが必要である、故に先づ第一に職人職工が覺醒して自己を信じ自己の職業の高尙なことを社會をして確認せしめなければならぬ、然らずんば矢張職人は以前の如く職人で社會から認められることも出來ず惡習慣に支配されて亂暴な無作法的な人とならなければならぬ、餘談はさてをきかゝる人に交際を求めんとするには餘り謙遜すぎでは却つて其の交際を交へることが出來ない、

何となればこの種の人には以上説いた通り習慣が亂暴に無作法に仕立たたので、兎角自由な無作法な生活を持続するのが普通の様に思れてゐるので、俄かにしかつめらしいことを云はれると却つて夫が嫌な感じを惹起すので其交際は永續しない、故にこの種の人に對する場合は成る可く淡泊に而かも簡單な態度で六ヶ敷詞を使はない様にして交際をする様にせなければならぬ、又無教育の人は一般に反抗心が強いので餘り傲慢な態度をしない様にせなければならぬ、さうしてかゝる人に對しては出來得る限り他動的要件を應用して自己の意に服従せしめる様にするのが最も肝要である、又こ

の種の人に對しては他動的要件を應用し易いのみならず、煽動的に突進し得るのである。

十 學者に交際を求めめる場合

學者は學問の蘊奥を究め學理を發見して之れを社會に發表する人である、故に學者は物慾を遠ざけ精神上の快樂を以て満足せなければ學者として其の學理の蘊奥を究めることは不可能である、さうして現代の様に社會が進歩して總てのことが複雑を極める様になつては到底一般に通ずることは不可能である、従つて一人の學者は一つの學理に付て徹頭徹尾研究して

他學理を發見するのが本分であるから自然社會の事情や常識のことに遠かるのである、殊に學者の中には學問の種類に因ると非常に保守的になり自我を強くする場合がある、故に學者と雖も一樣に之を論ずることは出来ないが要するに學者たる者は學理の發見を以て最極無上の名譽であつて亦夫れが慾望満足の唯一であるから物質慾の如きは慾望の限りでない、從つて自我が強くなり保守的になり無常識になるのも無理ならぬことである、而かも斯の如くなるのが學者の當然のことである。

かゝる人に交際を求めんとするには先方の地位を認め尊稱でも先生と云ふ様にし總てに尊敬の意味を以て接することが肝要である、さうして學者は一般に眞面目な堅くるしい人が多いから餘り空想なことを云はない様にせなければならぬ、尙誠意のある處を示さないと中々信用しないから誠意を以て親しむ様にせなければ其目的を達しない、兎角學者は正理の人が多いが負ざらいであるから成るべく先方の感情を損はない様に力めてゐなければ其交際を持続することは出来ない、さうして先方の専門とする處の學問が高尙で且社會に益する處の尠くないと云ふ様に其學問の妙味のあることを説くが如き方法に出なければならぬ。

十一 政治家に交際を求めらるる場合

政治家と云へば文字の示す如く國家の政治に參與する名譽ある職責を有する人である、故に其職責の爲めには何物をも犠牲にする覺悟と、之に伴ふ努力とが必要である、言葉を換へて云へば國家の爲めには私慾を棄て國民の爲めには公明正大に努力奮闘させなければならぬ人である、然るに現代の政治家と稱する人は、かゝる正義の行動を爲すものは殆どない、甚だしきに至つては其名譽ある職責を利用して自己の私慾を肥やし曖昧に事を爲し國民を欺むく行爲に出づる人も尠なくない、かくては我立憲國の進

歩發展上誠に憂慮すべき現象である、要するに政治家と稱する人は物慾を犠牲にして専ら精神上的の慾望を以て満足しなければならぬのである、言葉を換へて言へば私慾を犠牲にし國家の爲め國民の爲めには飽くまで努力奮闘し、其名譽ある職責に盡さなければならぬのである、尠なくとも政治家として立つ以上は、國家の爲め國民の爲に一身を犠牲にしても盡す決心がなければならぬ、さうして名譽に生きる人であつて物慾の爲めに支配されない淡泊な質の人でなければならぬ、又かゝる人でなければ政治の進歩發達と云ふことは望み得られないのである。

斯の如き人に交際を求めんとするには活潑にして淡泊にして明瞭なる言語を以て接しなければならぬ、何となれば政治家は淡泊にして活潑てふことが生命であるのみならず多くの人に交際を求められてゐるので其人をして短時間の間に於て快感ならしめるには快活なることを要するは多く云ふまでもないことである、殊に代議士の如きは一つの弱點がある、即ち代議士は國家の政治に參與すると云ふ名譽ある職責を有する人である半面には國民の選舉に俟たなければならぬのである、故に如何に其名譽ある職責を欲すと難も人民の選舉に當選せなければ其の榮譽に浴することは出

來ない、要するに吾人々類は反對給付に繋がる時は、如何に苦しい場合でも之に應ずるのが常である、故に之の弱點を捕へて突進するときには必ず利益交換を享くることが出来るのである。

十二

辯護士に交際を求めめる場合

辯護士は昔代言と云ふて餘り社會から認められなかつたが現代では社會に於て有樞の地位を占め亦社會からも大に認められて國家樞要の人となるに至つたのである、言葉を換へて言へば現代社會が複雑になつて法律關係が錯綜して専門家の手でなければ其法律保護を完全に享けることが出来な

くなつたので自然其地位を認められる様になつたのである、又社會政策上より之を云ふときは國民に完全な法律保護を與へるは文明國の當然爲すべきことである、さうして其保護を完全に與へんとするには専門家たる辯護士の手に據らなければ到底其目的は達し得らるゝものでない、故に國家としても辯護士に對し充分に其地位を認める様になつたのである。

斯の如く辯護士は社會の中流以上の地位を有し法律適用の完全ならんことを希がふものであるから、口が軽くて理解力に富んでゐなければならぬ、又職業が職業であるだけに精神上若くは物質上の慾望は共に遠大であ

る、さうして社交は概して巧妙な方である、故に辯護士に交際を求めんとするには容易に其目的を達することが出来る、併し學者と異なつて勘定高い點があるのと總てが相對主義であるとは注意してゐなければならぬ、併し商人の様に總てが物質主義でないことは云ふまでもないことである、さうして理想が遠大であるだけに、餘り細かな談話は適しない様である。

人をチャア應接の仕方 終

大正十年四月十七日印刷
大正十年四月廿日發行

定價金壹圓五十錢

送料八錢

著者 石角春洋

東京市神田區今川小路二丁目十七番地

發行者 稻垣利吉

東京市麴町區飯田町六丁目一番地

印刷者 杉本新吉

東京市芝區愛宕下町三丁目五番地

印刷所 愛生舎印刷所

◆ 製 復 許 不 ◆

發行所

東京市神田區今川小路二丁目
振替東京三六六六七番

九段書房

誰にも出来る ドクトルオヴ野中春洋先生著

暴騰 株式の運用

四六判洋装四百頁
定價三圓 送料十二錢

◆人に胡魔化されず確實に儲けるには!!

誰でも株式の投機を危険なものだと思つて居る甚だしい者になると賭博でもする様に思つて居ることは甚だ誤つた考へである
株式の投機がそれ程危険なものでないことは多く云ふまでもない事實だ其の原理原則を知つて其の規道を誤らなければ必ず成功するものだ
本書は有名な野中先生が其の原理原則と其の規道を誰にも解り易く書かれたものである
だから寝轉んで居ながら株式の投機が何物であるか、如何なる時機にこれを行へば確實に儲かるか取引所の内容や、其の用語まで凡て親切に書いてあるから坐つて居ながら眼の前に見られる様に明瞭に理解される
今日は最早暗闇からは金は儲からぬ濡れ手の粟の掴みどりの世の中てはないだから本書に由つて其の確實な方法を知り給へ



終

